

令和5年度 静岡県済生会事業報告書

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部静岡県済生会



濟生会 基本原則

社会福祉法人^{恩賜財団}濟生会は、濟生勅語にみられる「施薬救療」の精神を承けて濟生の実を挙げ、社会福祉の増進を図ることを目的として設立された。

以来、全国にわたり医療機関及びその他の社会福祉施設等を設置して定款に記された事業を行っている。

令和5年度 静岡県濟生会 経営方針

濟生会の理念と役割の実践

支部理事会を意思決定機関とし、支部長に幅広い権限を一元化した業務執行体制による機動的かつ効率的な組織運営の下、変化する社会経済状況や経営環境に的確に対応しつつ、安定した経営基盤を確立・強化するとともに、「施薬救療」の具現化と社会的使命をより一層発揮するため、令和5年度からの「第3期中期事業計画」にてその着実な推進に努める。

1 濟生会ブランドの構築のために

「施薬救療」の精神に基づき無料低額診療事業の一層の推進と生活困窮者への支援事業の充実並びに医療・福祉サービスの積極的な推進を図る。SDGsやソーシャルインクルージョンの理念とも合致するこの事業へ「濟生会地域包括ケア連携士」を中心に各施設職員の理解を深め、幅広くかつ積極的に実行することにより濟生会のブランドの確立を目指す。

2 わが国最大の医療・福祉団体としての活動と役割

新型コロナウイルス感染症対応に引き続き全力で取り組むとともに、生活に密着した心温まる医療・福祉サービスを提供する。

また、切れ目のない医療・福祉サービスを提供するために必要な医療・福祉の密接な連携に先導的な役割を果たしていく。特に、今後の我が国のこの分野において最重要課題とされる地域包括ケアの形成に向けて、本支部の有する資源を効果的に活用し、連携を図る取組みを進める。

3 経営基盤の強化

「施薬救療」の精神の具現化等本支部の社会的使命を果たしていくためには健全な経営を確保していくことが不可欠である。コロナ禍の厳しい経営環境の中でも、支部を挙げて経営基盤の強化に取り組み、本支部事業の持続的発展に努めていく。

4 行政・関係団体・地域住民等外部との連携・協力

地域における医療・福祉の需要に応えるため、行政や社会福祉協議会等の医療・福祉団体、さらには地域住民との連携・協力などの仕組みを形成し、地域ネットワークのキーステーションとしての役割を担う。

5 良質な人材の確保や、「施薬救療」の精神を实践する「濟生会人」の育成に努め、サービスの向上と組織体制の強化を図る。

6 ガバナンスの確立とコンプライアンスの徹底を図るとともに、危機管理体制の万全な備えに一層努める。

目 次

○	令和5年度事業報告	頁
1	静岡県済生会支部事務局	1
2	静岡県済生会監査室	10
3	静岡済生会総合病院	12
4	静岡済生会療育センター令和	16
5	静岡医療福祉センター成人部	20
6	静岡医療福祉センターライトホーム	22
7	静岡市発達障害者支援センター	24
8	伊豆医療福祉センター	26
9	川奈臨海学園	29
10	静岡市心身障害児福祉センターいこいの家	32
11	小 鹿 苑	36
12	小鹿なでしこ苑	41
13	静岡市桜の園	44
14	静岡市心身障害者ケアセンター	48
15	ワーク春日	52
16	静岡済生会看護専門学校	54
17	静岡済生会訪問看護ステーションおしか	56

※各記載事業の記号は次のとおりです。

①・・・指定管理による事業

②・・・自治体からの委託事業

基本理念

済生会創立の「施薬救療」の理念の下、静岡県済生会の各施設の連携を図り、その総力を挙げて質の高い医療・福祉サービスを提供し、安心・安全な地域医療・福祉の実現に寄与する。

令和5年度目標及び結果

目標1 安心・安全な地域医療・福祉の増進

- (1) 病院及び各施設と連携したなでしこプラン（生活困窮者支援事業）の積極的推進
目標数：2,334名
- (2) 静岡県済生会地域包括ケア推進方策の検討
・済生会地域包括ケア連携士を中心とした相談会定期開催や地域貢献活動への支援

- 結果** (1) 令和5年度計画に対しての実績2,606名(2,281名)
(2) 済生会地域包括ケア連携士を中心に、「医療・福祉なんでも相談会」の開催、制服リユース回収への協力及び子ども食堂を開催した。

目標2 各施設の円滑かつ安定的な運営支援

- (1) 施設整備や事業推進上の課題解決等に係る支援
・土砂災害等危険区域に立地する施設や老朽化する建物に対する将来構想等
- (2) 職員研修や人事評価制度等の人材育成の充実・強化
・体系的な職員研修の構築、階層・職種毎の研修の開催
・人事評価制度の運用継続
- (3) 適切な会計経理処理の確保と経営改善のための支援の強化
・公認会計士による指導
・施設長等管理者への会計経理研修会の開催

- 結果** (1) 静岡市桜の園は、行政との協議を継続。
静岡医療福祉センター検討委員会により「s w a pプログラム（職員交流制度）」を実施した。また建物等含めた今後の在り方、将来構想を検討する会を立ち上げた。
(2) 階層別研修は、リモートも含めての開催となった。（詳細は3ページ記載）
新卒採用者を対象としたフォローアップ面談を実施し、離職防止に努めた。
(3) 施設長など管理者向けに財務管理研修会を実施した。9月13日開催19名受講

目標3 医療・福祉の人材確保

- ・実習指導者等との連携を図り、魅力ある法人の情報を発信し、外国人も含めた優秀な人材確保に努める。

- 結果** 担当者打ち合わせ会及び奨学金の貸与は未実施。
今後の労働力問題から外国人技能実習生等の管理団体との情報交換を行った。

目標4 静岡県済生会事業の積極的広報による市・県民との信頼関係の構築

- (1) 病院及び各施設の情報発信の促進
- (2) 施設間連携の取組や地域住民との連携・交流事業の情報発信

- 結果** (1) インスタグラム・LINE等SNSを活用し、施設ごとに特色のある情報発信に努めた。

(2) 静岡県社会福祉協議会、静岡市社会福祉協議会、西豊田学区自治会連合会、西豊田学区民生委員児童委員協議会、静岡県ボランティア協会及び小鹿苑の6団体により災害ボランティア活動用機器に関する覚書を締結し、小鹿苑敷地内に防災倉庫を設置した。

(1) 支部事務局運営事業

社会福祉法人^{静岡}静岡県済生会の法人管理並びに運営事務について、次のとおり事業を行った。

ア 支部理事会の開催・・・7回開催（6回）※議案一覧は6～8ページに掲載

	開催日	場所
第1回	令和5年 5月15日	レイアップ御幸町ビル
第2回	令和5年 7月26日	グランディエール ブケトーカイ
第3回	令和5年 7月26日	〃
第4回	令和5年 9月27日	〃
第5回	令和5年11月22日	〃
第6回	令和6年 1月31日	〃
第7回	令和6年 3月19日	〃

イ 諸会議の開催

会議名称	回
・支部事務局会議	17 (17)
・支部執行会議	6 (6)

医療施設及び社会福祉施設等の有機的な連携を図るための連絡調整

会議名称	回
・静岡県済生会地域包括ケア委員会	5 (5)
・施設連携懇話会	0 (1)
・静岡医療福祉センター検討委員会	2 (2)

ウ 済生会本部等との連絡調整

会議名称	回
・支部長会議（本部）	2 (2)
・済生会関東ブロック会議（茨城県支部）	1 (1)
・全国済生会支部事務責任者会議（富山県支部）	1 (1)
・済生会障がい者就労支援協議会（静岡県支部）	1 (1)

エ 第三者委員会の運営に係る業務・・・1回(1回)

担当部署	開催日	内 容
第1回	令和5年12月22日	会場：川奈臨海学園 ・小規模児童養護施設の見学 ・川奈臨海学園の見学 議題：「令和4年度後期以降の苦情案件の処理について」 静岡済生会療育センター令和2件 小鹿苑1件 小鹿なでしこ苑1件 静岡市桜の園3件 計4施設7件 ※法人ホームページに記載

オ 職員研修事業の実施

担当部署	開催日	内 容
企画課 第1回	令和5年6月23日	「業務新人職員研修」 ・済生会について ・無料低額診療について 8施設17名(10施設22名)
企画課 第2回	令和5年8月25日	「相談業務職員研修」 ・「静岡県済生会相談支援事業担当者一覧」作成報告 ・意思決定支援について 12施設16名(12施設23名)
企画課 第3回	令和5年10月25日	「業務中堅職員研修」 ・権利擁護・虐待防止について 11施設21名(9施設16名)
企画課 第4回	令和5年12月15日	「業務主査・主任職員研修」 ・チームリーダーとしての姿勢とコミュニケーションについて 9施設10名(8施設16名)
企画課 第5回	令和6年2月22日	「業務副主任職員研修」 ・精神の病気について ・認知症に関する病態・薬物療法・非薬物療法・ケア等 ・大人の発達障害の対応・基礎知識について 9施設14名(12施設23名)
財務課	令和5年8月16日	「消費税インボイス制度及び電子帳簿保存法講座」 12施設18名
財務課	令和5年9月13日	「管理者向け財務管理研修会」 15施設19名

カ 機関誌定期発行による情報発信 「しぶだより」年3回の発行

キ 法人の管理運営に係る業務（会計事務所等による会計監査及び監事監査）
対象・・・全施設

	開催日	対象
会計事務所および監査人による会計監査	令和5年4月18日、19日、20日、21日	全施設
監事監査	令和5年4月27日	全施設
現地監査	令和5年6月28日 令和5年11月2日	・川奈臨海学園 ・伊豆医療福祉センター ・静岡済生会総合病院 ・訪問ステーションおしか ・静岡済生会看護専門学校

・行政機関（静岡県、静岡市）による指導監査への立会い

(2) 生活困窮者支援事業

生活困窮者支援事業（なでしこプラン）を病院、各施設とともに推進、展開した。

※9 ページ参照

(3) 静岡県済生会職員共済制度事業

職員及び家族の福利厚生の上昇を図るため、各種給付を実施、実績は、次のとおりであった。

事業名	令和5年度		令和4年度	
	人数(名)	決算額(円)	人数(名)	決算額(円)
退職共済事業給付事業	20	70,749,477	25	119,838,160
医療共済給付事業	5,695	40,347,550	5,719	39,359,153
職員共済制度資金貸付事業	0	0	0	0

(4) 施設等支援事業

ア 組織運営上の課題を抱えた施設の将来構想検討に係る支援

- ・静岡市桜の園・・・指定管理期間後における現地での事業継続は困難と判断し、静岡市担当課に対して申し出て今後の対応について協議を行った。

(6年度継続)

- ・静岡医療福祉センター検討委員会の開催

→2回開催（7・12月）静岡医療福祉センター、伊豆医療福祉センターの2施設で支援の質の向上と異動の醸成に繋げることを目的とした「s w a p プログラム（職員交流制度）」の検討と実施。実施結果について委員会で検証し次年度も実施することとする。

また、静岡医療福祉センター内の入居施設の方向性及び同センター全体の将来構想を含めた今後の在り方に関して必要な検討を行う会を同センター内で立ち上げた。

- ・ワーク春日 福祉ホームの在り方についての検討

→行政との協議の結果、事業継続の要望もあり積極的に関係各所へ広報した結果、全室利用となる月もあった。

イ 事務業務改善の推進 給与計算等共通業務の集中処理化を検討する

→検討の結果、令和6年度から一部施設の給与処理の集中処理を試行的に実施し、問題点を掘り起こす。

(5) 令和6年能登半島地震の対応について

能登半島での地震発災により、本支部各施設の支援として職員派遣や物資支援を実施した。厚労省から要請の被災地病院への職員の派遣、県から要請のDMAT、DWA T、災害支援ナースなどの活動を実施した。

金沢病院への看護師派遣

支部	病院名	延日数	派遣期間	人数
静岡	静岡済生会総合病院	52日	1/25～2/1	1名
			2/9～22	1名
			2/29～3/14	1名
			3/7～21	1名

珠洲市総合病院への看護師派遣

支部	病院名	延日数	派遣期間	人数
静岡	静岡済生会総合病院	12日	1/12～17	1名
			1/17～22	1名

DMAT活動状況

支部	派遣元施設	派遣先（主な活動場所）	活動・派遣期間	備考
静岡	静岡済生会総合病院	能登総合病院（参集拠点） 市立輪島病院	1/5～9	
		輪島市立保健医療福祉調整本部	1/23～27	
		いしかわ総合スポーツセンター	2/11～13	看護師（静岡県立総合病院との混成チーム）

DWA T活動状況

支部	派遣元施設	派遣先（主な活動場所）	活動・派遣期間	備考
静岡	川奈臨海学園	いしかわ総合スポーツセンター	1/15～18	保育士1名
		志賀町富来活性化センター	1/22～25	指導員1名
		志賀町文化ホール	1/30～2/2	指導員1名
		志賀町富来活性化センター	2/11～14	指導員1名
		志賀町文化ホール、地域交流センター		
		志賀町富来活性化センター 志賀町文化ホール、地域交流センター	2/19～22	保育士1名
	小鹿苑	七尾市御祓地区コミュニティセンター	1/15～20	介護員1名
	ワーク春日	志賀町文化ホール、地域交流センター	2/11～14	支援員1名

災害支援ナース

支部	派遣元施設	派遣先（主な活動場所）	活動・派遣期間	備考
静岡	伊豆医療福祉センター	輪島市ふれあい健康センター	1/24～27	静岡県看護協会

令和5年度支部理事会議案及び報告事項について			
令和5年5月15日(月)			
レイアップ御幸町ビル 5階 5-D			
第1回	第1号議案	令和4年度川奈臨海学園拠点の積立資産について	承認
	第2号議案	令和4年度社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会事業報告について	承認
	第3号議案	令和4年度社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会決算報告について	承認
	第4号議案	静岡県済生会職員の業務外の疾病又は心身の故障による休職及び復職に関する規程の制定について	承認
	報告事項ア	令和5年度支部役員人事について	報告
	報告事項イ	令和5年度春の叙勲について	報告
	報告事項ウ	静岡済生会総合病院長期設備整備資金借入結果について	報告
	報告事項エ	指導監査及び実地指導監査報告について	報告
	報告事項オ	報道等で見ると静岡県済生会	報告
	報告事項カ	令和5年度静岡県済生会支部理事会開催予定について	報告
令和5年7月26日(水)			
グランディエールブケトーカイ 4階 ワルツ			
第2回	第1号議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会支部理事の委嘱について	承認
令和5年7月26日(水)			
グランディエールブケトーカイ 4階 ワルツ			
第3回	第1号議案	令和5年度静岡県済生会施設整備計画の変更について	承認
	第2号議案	静岡医療福祉センターライトホーム管理規程の制定について	承認
	第3号議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会副会長候補者の選任及び推薦について	承認
	第4号議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会施設長候補者の選任及び推薦について	承認
	報告事項ア	静岡県済生会支部理事の委嘱について	報告
	報告事項イ	監事実地監査報告について	報告
	報告事項ウ	報道等で見ると静岡県済生会	報告
令和5年9月27日(水)			
グランディエールブケトーカイ 4階 ワルツ			
第4回	第1号議案	積立金及び積立資産の目的外取崩について	承認
	第2号議案	有価証券売却の承認について	承認
	第3号議案	令和5年度静岡県済生会収支予算の補正について	承認
	第4号議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会給与規程の一部改正について	承認
	報告事項ア	静岡医療福祉センターライトホーム施設長の逝去について	報告
	報告事項イ	報道等で見ると静岡県済生会	報告
	報告事項ウ	その他報告(市民公開講座、施設のお祭りの案内等)	報告

令和5年11月22日(水)			
グランディエールブケトーカイ 4階 ワルツ			
第5回	第1号議案	令和6年度静岡県済生会施設整備計画について	承認
	報告事項ア	秋の叙勲受章・施設長人事について	報告
	報告事項イ	監事実地監査報告について	報告
	報告事項ウ	静岡済生会総合病院半期決算報告について	報告
	報告事項エ	令和5年度上半期資金運用状況報告について	報告
	報告事項オ	有価証券の売却について	報告
	報告事項カ	静岡市発達障害者支援センター運営資金の借入について	報告
	報告事項キ	令和5年度指導監査結果に係る是正・改善計画について	報告
	報告事項ク	報道等で見ると静岡県済生会	報告
令和6年1月31日(水)			
グランディエールブケトーカイ 4階 ワルツ			
第6回	第1号議案	令和5年度静岡県済生会事業計画の一部改訂について	承認
	第2号議案	静岡済生会療育センター令和の各事業における運営規程の一部改正について	承認
	第3号議案	静岡済生会総合病院長期設備整備資金借入の承認について	承認
	第4号議案	令和6年度社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会事業計画について	承認
	第5号議案	令和6年度社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会収支予算について	承認
	第6号議案	令和6年度社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会職員定数について	承認
	第7号議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会就業規則の一部改正について	承認
	第8号議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会給与規程の一部改正について	承認
	第9号議案	小鹿苑の各事業における運営規程の一部改正について	承認
	第10号議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会支部役員の選任について	承認
	追加議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会支部長候補者の選任及び推薦について	承認
	第11号議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会施設長候補者の選任及び推薦について	承認
	報告事項ア	能登半島地震に対する当支部の支援について	報告
報告事項イ	報道等で見ると静岡県済生会	報告	
令和6年3月19日(火)			
グランディエールブケトーカイ 4階 ワルツ			
第7回	第1号議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会規則の一部改正について	承認
	第2号議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会組織規程の一部改正について	承認
	第3号議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会給与規程の一部改正について	承認
	第4号議案	静岡済生会総合病院処務規則の一部改正について	承認
	第5号議案	静岡済生会療育センター令和処務規則の一部改正について	承認

第6号議案	静岡済生会療育センター令和（医療型障害児入所施設）運営規程の一部改正について	承認
第7号議案	静岡医療福祉センター成人部における運営規程の改正について	承認
第8号議案	静岡市桜の園各事業における運営規程の改正について	承認
第9号議案	障害者生活支援センター城東運営規程の一部改正について	承認
第10号議案	ワーク春日福祉ホーム事業における運営規程の一部改正について	承認
第11号議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会施設長等の任免について	承認
第12号議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会名誉施設長候補者の選任及び推薦について	承認
追加議案	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 済生会支部静岡県済生会給与規程の手当に関する特別措置規程の制定について	承認
報告事項ア	令和5年度社会福祉施設指導監査等の実施結果について	報告
報告事項イ	報道等で見える静岡県済生会	報告

第4次なでしこプラン(令和5年度実績)

令和5年度		
目標	実績	対目標値
2,334	2,606	272

施設名	事業名	令和5年度		
		目標	実績	対目標値
静岡県済生会	地域包括ケア連携士等による相談会	120	40	△ 80
	他団体との協働による支援活動	200	296	96
静岡済生会総合病院	社会福祉施設等健康診断支援事業	900	987	87
	保護観察所等刑余者健診・相談事業	10	5	△ 5
	児童・ひとり親家庭等健康診断・相談事業	30	23	△ 7
	生活困窮者等健康診断・相談事業	100	63	△ 37
	外国人等健康診断・相談事業	100	100	0
	生計困難者等に対する日用品及び交通費等の支援事業	15	4	△ 11
	外国人医療通訳支援事業	200	232	32
	長期療養者就労支援事業	15	25	10
	無料健康相談事業	100	69	△ 31
	支部内各施設における無料健康相談	10	0	△ 10
	無料インフルエンザ予防接種事業	10	8	△ 2
	周知・啓発活動	220	192	△ 28
	静岡済生会療育センター令和	障害児療育講座	70	61
伊豆医療福祉センター	支部内各施設における無料健康相談	15	12	△ 3
川奈臨海学園	保護観察対象者等が行う社会貢献活動の受入れ	16	0	△ 16
	施設退所者の健康診断補助事業	2	0	△ 2
静岡医療福祉センター成人部	支部内各施設における無料健康相談	2	2	0
小鹿苑	虐待高齢者の緊急受入れ事業	1	15	14
	周知・啓発活動	60	356	296
小鹿なでしこ苑	周知・啓発活動	120	103	△ 17
静岡市桜の園	虐待障害者の緊急受入れ事業	2	0	△ 2
	少年院在院者奉仕活動実習受け入れ事業	16	13	△ 3
なでしこプラン対象者数合計		2,334	2,606	272

2 静岡県済生会監査室

コンプライアンスの遂行と説明責任に対する社会的要請が高まる中で、社会福祉法人においても内部統制システムの整備と適切な運用が強く求められており、これまで以上に業務チェック機能を果たす内部監査の重要性が高まっている。

監査室は、引き続き関係法令、通知等に基づき施設の事務処理及び運営等が適正に行われているかどうかを明らかにし、必要な指導及び是正改善等を行うために下記の監査を実施した。

(1) 社会福祉法人^{静岡県}済生会支部静岡県済生会監査規程に則って次の監査を実施

- ①定期監査 時期及び内容を定めて計画的に実施。
- ②決算監査 毎会計年度終了後、決算役員会前に実施。

・定期監査・

施設名	監査日
川奈臨海学園	令和5年 8月 30日
なでしこ保育園	令和5年 10月 25日
小鹿なでしこ苑	令和6年 1月 24日
小鹿苑	令和6年 1月 26日
静岡済生会療育センター令和	令和6年 1月 26日
静岡市桜の園	令和6年 1月 29日
静岡医療福祉センター成人部	令和6年 1月 31日

なお、各福祉施設の定める運営規程について、定めるべき項目の内容確認を実施した。

・決算監査・

施設名	監査日
会計事務所による会計監査	令和5年 4月 18日、19日、20日、21日
監事監査	令和5年 4月 27日

(2) 行政機関等による指導監査及び実地指導等への立会

・静岡県・静岡市による指導監査

施設名	監査日	実施機関
川奈臨海学園	令和5年 9月 13日	静岡県
なでしこ保育園（書面）	令和5年 12月 25日	静岡市
小鹿なでしこ苑	令和6年 1月 30日	静岡市
小鹿苑	令和6年 2月 1日	静岡市
静岡済生会療育センター令和	令和6年 2月 6日	静岡市
静岡医療福祉センター成人部	令和6年 2月 6日	静岡市
静岡市桜の園	令和6年 2月 8日	静岡市

・静岡市による実地指導

施設名	監査日	実施機関
静岡済生会療育センター令和（書面）	令和6年2月6日	静岡市

・東海北陸厚生局適時調査

施設名	監査日	実施機関
静岡済生会総合病院	令和6年2月5日	東海北陸厚生局
伊豆医療福祉センター	令和6年2月9日	東海北陸厚生局

・静岡市保健所立入検査

施設名	検査日	実施機関
静岡済生会総合病院	令和5年10月20日	静岡市保健所

(3) 支部監事による施設実地監査への立会

施設名	監査日
川奈臨海学園	令和5年6月28日
伊豆医療福祉センター	令和5年6月28日
静岡済生会総合病院	令和5年11月2日
静岡済生会訪問看護ステーションおしか	令和5年11月2日
静岡済生会看護専門学校	令和5年11月2日

基本理念

私達は暖かい思いやりの心で質の良い医療・福祉サービスを実践します。

令和5年度目標及び結果**目標1 安心・安全・高機能な急性期医療の提供**

- ・コロナ禍に対応した安心、安全な医療の提供に努める。
- ・業務の標準化と整理整頓を進め、顧客サービスの向上に努める。
- ・入院患者を中心とした機能の集約を目指す。

結果 新型コロナ対策と急性期医療の両立に努めた。

目標2 患者さん・連携医へのサービス向上

- ・「治す医療」と「支える医療」の充実に努める。
- ・プライバシーの配慮、施設設備の充実、接遇の質の向上を図る。
- ・地域の医療機関との連携を強化した紹介、逆紹介の推進
- ・無料低額診療、生活困窮者支援事業を推進する。
- ・広報活動の充実、強化に努める。

結果 大型医療機器（血管造影装置の増設、ダヴィンチ導入）の運用を開始した。次年度へ向けての大型医療機器（MRI）の整備を計画した。

広報活動全般が再開し、市民公開講座、済生会フェア（講演会・web）を実施した SNS を活用し、随時情報発信を行った。

目標3 優秀な人材の確保

- ・必要な人材の確保と定着を目指し、職員教育の更なる充実に努める。

結果 次年度へ向けての医師確保に努め、医師増員を実現した。

目標4 働きやすい環境

- ・専門性を生かした業務を行える体制を整備
- ・働き方改革への対応。人事、給与等システムの活用を図る。
- ・障がい者雇用率2.5%以上を目指す。
- ・感染対策に一層の強化を図る。

結果 働き方改革を推進した。
障がい者雇用率2.5%を達成した。

目標5 安定した経営

- ・新入院数及び入院単価の向上に努める。
- ・病床稼働率の向上に努める。

結果 経営指標は前年度比で回復傾向。平均在院日数の短縮、新たな施設基準取得等により入院単価の大幅な増加となった一方、新入院数の伸びが目標に届かず、病床稼働率は改善したものの、目標には届かなかった。

静岡県中部地域の中核病院（昭和23年6月1日開設）として、入院診療を中心とする診療の充実に努めるとともに、救命救急センター、周産期センター、地域災害医療センター、健康管理センターのほか、地域福祉サービス事業等の運営、活動を積極的に進め、地域住民の疾病治療、予防、健康の増進を図った。

地域連携を一層推進するほか、医療の質及びサービスの向上を図り急性期病院として地域に更に貢献できる医療の提供を目指した。

なお、病院経営については、新入院数及び入院単価の向上、医療従事者の確保、支出削減に努め、安定した財源確保を図るとともに、職員の患者、連携医へのサービス向上等を模索したものの、新型コロナウイルス感染症への対応に追われ、その他の新たな取組を進めることは困難であった。

(1) 病院運営事業

病床の適正配置と効率運用により、各診療科の安定した診療体制を確保した。救命救急、周産期、脳卒中、循環器等地域のニーズに対応するとともに、7対1看護基準の維持により、安心・安全な看護体制を維持した。新入院数は前年度よりも回復したが、在院日数の短縮により一日平均入院患者数は減少した。

区 分	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
許可病床数	521 床	521 床	521 床
一日平均入院患者数	405 名	379 名	380 名
一日平均外来患者数	976 名	922 名	930 名

※静岡済生会療育センター令和除く

(2) 救命救急センター・地域災害医療センター事業等

専門医を配置し、救急医療体制の充実強化を図った。また、災害派遣医療チーム(DMAT)の研修に積極的に参加し、大規模災害発生時の医療チーム緊急派遣に機動的に応じられるよう努めた。

区 分	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
救急患者数	18,000 名	15,004 名	14,035 名
うち入院患者数	4,300 名	4,205 名	3,866 名

(3) 臨床研修事業

臨床研修病院として、研修医を受け入れ、各科指導医による臨床実務を通じて基本的知識、技術の習得などの臨床研修を行い医師としての資質向上に努めた。マッチングではフルマッチを果たした。

区 分	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
受入研修医数	24 名	24 名	24 名

(4) 医師・看護師確保対策事業（院内保育所）

医師・看護師の離職防止と潜在医師・看護師の再就職を促進するために、なでしこ保育園の充実運営に努めた。

区 分	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
事業所内保育事業（共同枠）	90 名/日	52 名/日	53 名/日
〃（地域枠）	20 名	20 名	14 名/日
病児保育事業	延べ 50 名	延べ 10 名	延べ 1 名
放課後児童健全育成事業	15 名/日	12 名/日	13 名/日

(5) 地域福祉サービス事業

社会福祉法人が運営する総合病院として、各医療福祉相談活動を通じ、地域住民の疾病治療、予防、健康の増進など社会福祉の向上に努めた。

区 分	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
医療相談	9,500 件	7,841 件	9,848 件
心理相談	4,600 件	3,975 件	4,438 件

(6) 無料低額診療事業

生計困難者を対象に、無料または低額な料金での診療、無料の健康相談、保健教育等を行った。診療活動においては、生活保護患者以外の生計困難者について関係機関と連携の上、対象者への支援に努めた。

区 分	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
実施率	10.0%	6.1%	6.9%
対象者延べ数	40,200 名	23,825 名	27,384 名

(7) 生活困窮者支援事業

無料低額診療対象者のみならず、生活困窮者全般を対象に、無料健康相談や無料または低額な料金での検診等を行った。無料低額診療事業とあわせて、支部内の他施設も含め、地域の関係機関・団体や当事者ととともに啓発活動、教育活動の他、地域での福祉的課題について積極的に取組を行った。

主な対象者：

刑余者（刑務所などを出所した者）、DV被害者、ホームレス、単身高齢者、就労困難者への支援など

区 分	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
対象者延べ数	1,710 名	1,708 名	2,068 名

(8) 健康管理センター事業

地域住民及び福祉施設入所者、一般事業所従業者の疾病予防、健康の保持増進に对应するため、人間ドック・各種健康診断を積極的に実施した。

区 分	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
人間ドック	2,000 名	2,234 名	1,919 名
生活習慣病予防健診等	14,400 名	13,467 名	13,679 名

(9) 地域開放事業

将来の生き方や職業の選択について考えている中学生、高校生を対象として医療、保健、福祉への理解を深めるため職場体験、ナーススクールなどを実施した。病院広報については、済生会フェア、市民公開講座を実施した。

区 分	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
市民公開講座	2回	6回	2回
職場体験(中学生参加人数)	15名	47名	3名
高校生ナーススクール	40名	76名	0名

4 静岡済生会療育センター令和

※()内は令和4年度実績

基本理念

私たちはノーマライゼーション実現のため、あたたかな心をもって皆さんを応援いたします。

令和5年度目標及び結果

目標1 経営の安定化

- ・関係機関と連携し、入院(入所)児(者)の確保に努める。
- ・医師、直接処遇職員の確保に努める。

結果 一日平均入院(入所)児(者)数 32.8名 昨年度より7.3名減目標の48名を大きく下回る結果となった。

職員の確保については看護師3名退職、支援員は2名採用したが2名退職と厳しい状況にある。

目標2 適切な支援の提供

- ・年齢および特性等に応じた支援を計画する。
- ・令和4年度に受審した第三者評価の結果をもとに、具体的な問題点を把握し、サービスの質の向上を図り、より良い支援を提供する。

結果 児童、成人それぞれの日中活動(施設内での活動)を計画的に行った。廊下から床高25cmの居室(3部屋)を段差なしのベッド対応へ改修した。第三者評価の結果よりマニュアル類の見直しの準備、組織変更の検討と処務規則の改正を行った。

目標3 安全な医療・生活の場の提供

- ・継続的に院内感染対策、医療安全対策、虐待防止に取り組む。

結果 新型コロナウイルス感染症対策を継続した。
虐待防止・身体拘束・食中毒の研修実施、定期的に委員会を開催した。

目標4 保護者との関係を強める

- ・懇談会を実施し保護者から施設への意見や要望などを受け取る場を設ける。
- ・個人別のお便りを毎月発行する。

結果 懇談会を年2回実施 家族の要望により平日夜、土曜日午後の実施とした。療育センター祭り「ハレ☆ばれカーニバル」を開催し家族との交流を図った。

「アートコネクト静岡」のピアノバイオリン演奏・大道芸の慰問に家族も参加し一緒に鑑賞した。

入所者家族がアート対話型鑑賞のファシリテーターとして参加し入所者と名画鑑賞をとおして交流を図った。

個人別お便り毎月発行、広報誌年3回発行、インスタグラムにより施設の情報発信、メール配信システムを導入し家族への連絡を発信した。

(1) 医療型障害児入所施設事業(一種事業)(定員57名)

障害福祉サービス事業(療養介護)(二種事業)(定員57名)

施設の定員を令和6年2月1日より60名から57名とした。

入所児者数は、保育・教育機関の環境の充実、交通網の発達による在宅志向の高まりなどから減少が続いている。

療養介護の入所者増加を図るため居室をベッド対応へ改修した。またコロナウイルス感染症の5類移行により受け入れを休止していた短期入所を病室改修後に再開した。病室改修後は事務長と療育支援課長が中部、東部の担当課、相談支援事業所等を訪問し当センターのPRと入所対象者紹介依頼の営業活動を行った。

家族との関係強化の新たな取り組みとして療育センター祭りを開催し入所児者、家族、職員と交流の場を設けた。

令和6年度からは入所の「主として受け入れる対象」を肢体不自由児から重症心身障害児へ変更する。入所児者確保のため人工呼吸器装着者の受け入れを6月から開始できるように準備を進めている。

今後の施設の在り方は、当センターを含めた静岡医療福祉センター検討委員会で検討している。

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均入院(入所)児(者)数	48名	32.8名	40.1名
一日平均外来患者数	140名	120.1名	124.1名

疾病別人員 令和5年4月1日～令和6年3月31日

疾病別	年間実人員	構成比
脳性麻痺	23名	50.0%
進行性筋・神経疾患	4名	8.7%
二分脊椎	3名	6.5%
その他	16名	34.8%
計	46名	100.0%

月別入所者数

	初日在籍者数	延べ人数
5年 4月	32名	990名
5月	34名	1,035名
6月	38名	1,138名
7月	34名	1,033名
8月	35名	1,102名
9月	33名	988名
10月	33名	1,023名
11月	33名	974名
12月	31名	969名
6年 1月	31名	959名
2月	31名	885名
3月	29名	912名
合計	394名	12,008名
月平均	32.8名	1,000.7名
一日平均		32.8名

(2) 障害福祉サービス事業（短期入所）（二種事業）

在宅の障害児（者）及びその家族の福祉の向上、支援を目的としている。新型コロナウイルス感染症の5類移行により9月から受け入れを再開した。

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
年間利用延べ人数	200名	81名	0名
一日平均利用人数	0.5名	0.2名	0名

(3) 障害児相談支援事業・特定相談支援事業（二種事業）[㊦]

ア 静岡市障害者等相談支援事業[㊦]

静岡市における相談支援事業指定施設として、在宅福祉を担当する職員を配置し、在宅の障害児（者）及び保護者に対して地域生活での具体的な相談、指導、サービスの調整を実施した。

イ 障害者等相談支援事業（虐待相談等含む）[㊦]

- ・相談支援事業として総合的な在宅サービスの調整、援助等

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
地域生活の支援・助言	3,000件	2,575件	3,111件

ウ 障害児等療育支援事業[㊦]

(ア) 在宅支援訪問療育等指導事業

- ・派遣職員 医師、PT、OT、ST、心理士等
- ・活動先 障害児保育実施園、重度障害児（者）訓練ホームの巡回、在宅訪問

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
相談等延件数	50名	41名	34名

(イ) 在宅支援外来療育等指導事業

- ・個別相談、療育音楽、グループ保育活動

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
相談指導延件数	50名	10名	20名

(ウ) 施設支援一般指導事業

- ・障害児保育研修、発達フォローアップ教室、自主研修会等の指導等

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
支援回数	12件	0件	0件

エ 指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業

- ・利用者の相談支援及びサービス利用計画書の作成等

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
利用計画書作成件数	130件	115件	136件

(4) 日中一時支援事業（公益事業）(委)

医療施設機能を提供しながら在宅の障害児（者）の相談支援や施設短期入所の受け入れなど、地域に住む家族の生活への具体的な支援を目的としている。

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
年間利用延べ人数	30名	0名	0名
一日平均利用人数	0.1名	0名	0名

(5) その他の事業（研修室・会議室等運営事業）

医療・社会福祉事業に携わる者の研修等の便宜に供するため、会議室等の管理運営事業を実施。

ア 会議室、ミーティング室利用状況

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
会議等利用人数	500名	726名	268名

イ 宿泊施設利用状況

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
宿泊施設利用人数	0名	5名	0名

(6) その他の事業（なでしこプラン）

事業名 障害児療育講座（健康医療相談）

施設利用者・家族を中心に無料の相談会を療育講座開催に合わせて行った。

昨年度までコロナウイルス感染症の流行により開催を見合わせていたが、今年度より再開した。6月から2月の間に5回実施した。

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
受講者数	70名	61名	0名

5 静岡医療福祉センター成人部

※()内は令和4年度実績

基本理念

- ・健康で豊かに安心して生活できるよう支援します。

令和5年度目標及び結果

目標1 良質かつ安心・安全なサービスの提供に努める

利用者の意向、障害の特性その他の事情を踏まえた個別支援計画に基づき、常に利用者の立場に立って適切かつ効果的なサービスを提供する。

結果 研修等への積極的な参加による職員の資質向上や家族・後見人・相談事業所等との連携強化を図った。

また、入所者の高齢化・重度化に伴う勤務体制の見直しを行い、令和4年度から早番制度導入を行ったほか、支援区分に対応した職員配置が行えるよう職員定数を一部改正した。また、令和5年度から土・日・祝日における看護体制の整備を図るなど、利用者に対する支援の充実に努めた。

目標2 地域との交流を深める

施設外の催し・大会等積極的に参加し、利用者の視野を広げると共に、地域に施設を理解してもらおう。そして地域防災に参加協力し、地域との協力体制構築を目指す。

結果 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い様々な行事が中止になったが、わかふじスポーツ大会の参加や西豊田学区における地域防災訓練に参加したほか、静岡県済生会地域包括ケア委員会が行う「なんでも相談会」、「こども食堂」に参加するなど、地域との交流を深めた。

目標3 安定した経営を目指す

相談支援事業所等と連携し、利用者の開拓に努め、入所者を確保する。

(目標) 年間 延べ20,400人

結果 5年度から営業活動に力を入れ病院・相談支援事業所・地域包括等95ヶ所を訪問した。しかし入所者の高齢化・重度化による病気等での入院増加や退所者の増加に伴い、延べ利用者数、一日平均在所者数ともに昨年に比べ減少した。

(1) 障害者支援施設(一種事業)「施設入所支援60名、生活介護60名」

障害者総合支援法による障害者支援施設として、日中は「生活介護」、夜間は「施設入所支援」の2事業を行った。

・施設入所支援

・定員	60名(60名)
・年間入所者数	3名(2名)
・年間退所者数	6名(7名)
・年間延在所者数	16,503名(17,973名)
・一日平均在所者数	(目標56名) 45.1名(49.2名)

疾病別人員

令和5年4月1日～令和6年3月31日

病名	年間実人員(名)	構成比(%)
脳卒中	25	49.0
その他の脳原性疾患	9	17.7
脳外傷	2	3.9
その他	15	29.4
計	51	100.0

月別生活介護・入所者数

月	月初入所人数	生活介護						施設入所	
		入所		通所		合計		利用人数	延べ利用数
		利用人数	延べ利用数	利用人数	延べ利用数	利用人数	延べ利用数		
4	48	48	948	6	47	54	995	48	1,424
5	48	48	1,068	6	44	54	1,112	48	1,436
6	46	46	972	7	54	53	1,026	46	1,326
7	45	46	937	7	51	53	988	46	1,381
8	46	46	1,023	7	49	53	1,072	46	1,376
9	46	45	937	7	53	52	990	46	1,340
10	46	46	1,011	7	52	53	1,063	47	1,424
11	46	46	1,008	7	47	53	1,055	46	1,376
12	46	46	941	7	45	53	986	46	1,389
1	45	45	1,027	7	50	52	1,077	45	1,383
2	45	45	938	7	40	52	978	45	1,296
3	45	44	917	7	43	51	960	44	1,352
計			11,727		575		12,302		16,503

・生活介護

- ・定員生活介護 60名(60名)
- ・開所日数 260日(261日)
- ・年間延利用者数 12,302名(13,354名)
- ・一日平均在所者数 47.32名(51.16名)

(2) 福祉サービス事業(短期入所)(二種事業)(空床)

指定障害福祉サービス事業所として短期入所事業を空きベッドの利用により実施した。

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
年間利用延べ人数	210名	390名	217名
一日平均利用人数	0.6名	1.1名	0.6名

6 静岡医療福祉センターライトホーム

基本理念

三療免許者に対し、必要な技術及び生活指導を行い、利用者の自立更生をはかる。

令和5年度目標及び結果

目標1 経営の安定化

- ・利用者（施術者）の確保
- ・利用客の確保 目標 500人

結果

- ・利用者（施術者）は年度当初は4名在籍
入所2名 退所3名。前年度の0.64名から1.05名に増加したが目標の2名には及ばなかった。
- ・利用客 576人と目標を上回った。

目標2 施設の広報活動

- ・感染対策を実施した広報活動を行う。
- ・済生会フェアへの参加
- ・マッサージ無料奉仕の実施
- ・近隣町内会への広報活動の実施

結果

- ・済生会フェアでのマッサージ無料体験
令和5年11月11日（土）実施
- ・マッサージ無料奉仕
「2023 ビジョンサポート機器展 IN 浜松」へマッサージ体験ブースを出展
令和5年11月26日（日）
- ・マッサージ無料奉仕
「こころのバリアフリーイベント」
令和6年3月23日（土）出店予定が雨天のため中止

（1）利用者指導事業（定員20名）

利用者の技術（鍼・灸・マッサージ）及び生活訓練動作の指導を行い、自立生活ができるよう養成に努めた。

年度途中に施設長から辞任申し出があり、令和5年11月1日に杉原孝幸が新しく施設長に就任した。

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均通所者数	2名	1.05名	0.64名

疾病別人員（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

疾病分類	通所実人員	構成比
先天性視覚障害者	0名	0%
中途視覚障害者	5名	100%
計	5名	100%

月別在籍者数

年月	通所者延べ人数
5年 4月	27名
5月	24名
6月	26名
7月	26名
8月	20名
9月	19名
10月	20名
11月	21名
12月	19名
6年 1月	14名
2月	16名
3月	18名
合計	250名
月平均	20.8名
一日平均	1.05名

(年間通所日数 237日)

(2) その他

*PTA 見学会受け入れ 令和5年12月14日(木) 8:45~9:15

目的 : 施設の概要や仕事を知るとともに進路選択の参考にする

内容 : 施設の見学、研修メニューの紹介

対象者 : 静岡視覚特別支援学校 保護者8名 教員3名

配布資料 : ライトホーム研修メニュー一覧、パンフレット

*技術研修会の実施 令和6年1月9日(火) 13:00~16:00

目的 : ライトホームでの手技を紹介し施術に活かしていただく機会とする。

内容 : ライトホームの概要、事業内容の説明、実習を通して技術の向上を図る。「首へのアプローチ」を紹介する。

対象者 : 視覚障害者であんま・鍼・灸いずれかの免許を所持している方

配布資料 : ライトホーム研修メニュー一覧、パンフレット

*視覚特別支援学校生徒見学受け入れ 令和6年3月4日(月) 8:35~9:20

目的 : 施設の概要や仕事を知るとともに進路選択の参考にする

内容 : 施設の見学、研修メニューの紹介

対象者 : 静岡視覚特別支援学校 生徒2名 教員2名

配布資料 : ライトホーム研修メニュー一覧、パンフレット

基本理念

直接支援である相談、発達、就労支援及び情報提供や啓発研修のより一層の充実を図り、医療、保健、福祉、教育、雇用、親の会など関係機関や団体との連携により専門性を持った支援職員人材育成、ペアレントメンター、地域サポーター養成研修等の支援を行っていく。

令和5年度目標及び結果

目標1 静岡市発達障害者支援センター運営事業について、相談支援、発達支援、就労支援を継続し適切な助言や支援の提案を行う

結果 発達障害者支援法に基づく発達障害者に対する相談支援、発達支援、就労支援、関係機関に対する普及啓発及び研修等を行い、また、静岡市在住の自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等の発達障害がある本人、家族、関係者及び関係機関からの相談支援を行った。

相談支援においては、相談者や関係機関と支援や情報を共有するために、令和5年度も引き続き電話相談のやり取りを丁寧に行うことを意識した。発達支援については、おもに支援体制サポート強化事業や※1コンサルテーション事業において、特に園・小・中学校および高等学校に訪問をした際に、特定の対象者ではなくクラス全員の様子と助言を求められることがあったため、発達支援の件数が目標を上回った。就労支援においては、成人期の相談ニーズも高くなっており目標を上回った。一方で就労支援においては相談時間が当センターで基本の1時間を大幅に越えて2時間にわたるケースがあるなど、相談内容についてはより困難化をしており、今後も重点的な支援の課題として取り組みたい。

※1年4回の支援体制サポート事業を超えてさらにバックアップが必要となる場合、訪問して支援する事業

目標2 発達障害者家族支援・支援体制サポート強化事業について、支援体制サポート強化事業において、巡回相談を実施する

※2ペアレントメンター・※3地域サポーター養成講座を実施し、あわせてペアレントメンターの活用を行う。

※2自らも発達障害のある子どもの子育てを経験し、かつ相談支援に関する一定のトレーニングを受けた親

※3養成講座を受けた専門機関等の職員

結果 ペアレントメンター・地域サポーター養成研修では、例年の養成講座6回に加え、(養成講座を修了したペアレントメンターが実際に活動を継続している地域はまれであり、)引き続き活動を継続できる体制づくりを実施した。2回のフォローアップ研修も実施した。

支援体制サポート強化事業については、今年度も園・小中学校に加えて、高等学校および就労移行支援事業所への訪問を、昨年度に引き続き実施した。今後も乳幼児期から成人期まで途切れのない支援がつながるよう事業を成人期まで拡大していくことを課題とする。

目標3 発達障害について、主催研修会、専門研修会、講師派遣を実施し、普及と啓発活動を行う

結果 令和4年度に引き続き一般研修、専門研修、かかりつけ医等発達障害対応力向上研修会を対面形式やZoomによるオンライン開催により実施した。また視聴期間

を決めて Web で視聴できる形式（期間限定の Web 配信、常設の Web 研修、ライブ配信した研修の期間限定見逃し配信）で実施した。そのため Web による視聴回数も参加延べ人数としているため、昨年度に引き続き増加があった。ペアレント・プログラムなど一部の研修会については、対面形式とオンライン形式を組み合わせたハイブリット型で実施した。

(1) 発達障害者支援センター事業(委)

ア 発達障害児者及び家族に対する相談支援

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
年間延べ相談件数	1,000件	1,174件	1,280件

イ 発達障害児者及び家族に対する発達支援

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
年間延べ相談件数	1,000件	2,301件	1,899件

ウ 発達障害児者に対する就労支援

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
年間延べ相談件数	150件	452件	319件

エ 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修（集合形式と Web 形式による開催）

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
年間開催回数	75回	157回	160回
（参加延べ人数）	(2,600名)	(7,705名)	(6,729名)

(2) 家族支援・支援体制サポート強化事業(委)

ア 支援体制サポート強化事業による巡回

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
年間延べケース数	500件	1,988件	1,457件
年間延べ訪問数	184回	223回	222回

イ ペアレントメンター・地域サポーターの養成

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
年間開催回数 （参加延べ人数）	6回（300名）	8回（615名）	6回（282名）

ウ ペアレントメンターの活用

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
年間実施回数 （ペアレントメンター延べ人数）	50回（145名）	61回（130名）	74回（193名）

8 伊豆医療福祉センター

※()内は令和4年度実績

基本理念

私たちは、障がいを持つ方々の生活の充実・納得を目指して、チームを組んで医療と療育の総合的支援に取り組みます。

令和5年度目標及び結果

目標1 地域ニーズの的確な把握と、適切な病床利用

入所者数 37名

結果 令和5年度の入所者数については、他病院への転出により1名が退所し、新規に1名が入所した結果、年度末において児童が12名、成人が24名の計36名であった。

目標2 入所利用者の満足度の向上

病棟での様々な行事の充実

結果 病棟での行事については、感染予防に配慮しながら、夏祭やクリスマス会などを実施した。また、制限を設けながらも可能な限り、家族に行事参加や面会をしていただいた。

目標3 在宅重症心身障害児者の福祉向上

利用者数 生活介護6名/日 児童発達支援4名/日 短期入所等5名/日

結果 外来患者については、年間延べ患者数はほぼ横ばいであった。また、いわゆる発達障害の患者の増加に対応するため、生活に根差したリハビリテーションの提供、オンライン診療と対面診療の併用、相談支援機能の充実、関係機関との連携を図った。

在宅支援福祉関連サービスでは、生活介護、児童発達支援、短期入所の延べ利用者数が、前年度、前々年度に比較して増加した。

目標4 運営システムの見直しによる施設機能の充実と業務の効率化

オンライン診療と対面診療の併用、電子カルテの運用

結果 運営システムの見直しについては、オンライン診療と対面診療の併用を開始するとともに、電子カルテの安定した運用により業務の効率化を図った。

当センターは、社会福祉施設であるとともに、医療法に基づく病院であるので、医療の提供も併せて行っている。

医療の提供については、重症心身障害児(者)への入院診療とともに、外来診療として、脳神経外科、発達行動小児科、小児神経科、整形外科、リハビリテーション科、障害児(者)歯科の専門診療を実施している。

地域への支援の必要性が高まる中、入所・通所事業、相談支援事業、医療の提供を通じて、静岡県東部の障害児(者)の総合的な療育支援の機能を担っている。

(1) 医療型障害児入所施設(一種事業)・障害福祉サービス事業(療養介護)(二種事業)

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均在所児(者)数	37名	35.5名	35.7名
一日平均外来患者数	110名	104.3名	105.3名

(入 所)

(外 来)

- ・定 員 43 名 (43 名)
- ・年間延べ患者数 25,055 名 (25,378 名)
- ・在所児(者)数 36 名 (36 名)
- ・年間診療日数 240 日 (241 日)
- ・年間延べ在所児童(者)数 12,978 名 (13,027 名)
- ・一日平均患者数 104.4 名 (105.3 名)
- ・一日平均在所児童(者)数 35.5 名 (35.7 名)

(2) 障害福祉サービス事業 (生活介護) (二種事業)

(2) 障害福祉サービス事業	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均利用者数	6 名	5.9 名	5.4 名
・定 員		6 名 (6 名)	
・登録者数		19 名 (19 名)	
・年間延通所者数		1,406 名 (1,135 名)	
・一日平均通所者数		5.9 名 (5.4 名)	
・年間通所日数		237 日 (210 日)	

(3) 障害児通所支援事業 (児童発達支援) (二種事業)

(3) 障害児通所支援事業	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均利用者数	4 名	3.1 名	2.8 名
・定 員		5 名 (5 名)	
・登録児童数		9 名 (10 名)	
・年間延通所児数		729 名 (561 名)	
・一日平均通所児数		3.1 名 (2.8 名)	
・年間通園日数		232 日 (197 日)	

(4) 障害福祉サービス事業 (短期入所) (二種事業)

(5) 日中一時支援事業 (地域生活支援) (公益事業) 委

(4) 障害福祉サービス事業 短期入所 (5) 日中一時支援 (地域生活支援)	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均利用児(者)数	4 名	4.0 名	3.4 名
・年間延べ利用者数		1,464 名 (1,174 名)	
・一日平均利用児(者)数		4.0 名 (3.4 名)	
・年間実施日数		366 日 (338 日)	

(6) 障害児相談支援事業・特定相談支援事業 (二種事業)

障害児支援利用計画及びサービス等利用計画策定に伴う相談の取り扱い件数が増加している。また、発達障害に関連する相談への対応として、*静岡県東部発達障害者支援センター「アスタ」と連携して、研修会等を開催した。(*所在地：沼津市 運営主体：NPO 法人自閉症 e スタイルジャパン)

ア 障害児相談支援事業 ……障害児支援利用計画の作成

イ 特定相談支援事業 …… サービス等利用計画の作成

ウ 静岡県在宅重症心身障害児(者)療育支援事業・・・委

医師・看護師・リハビリ・保育士等の専門職による外来相談を中心に、重症心身障害児（者）を対象として、地域での療育や生活に関する相談・支援を実施した。

エ 静岡県発達障害者支援センター機能強化事業…

発達障害児（者）のライフステージに応じた支援を提供するため、県から委嘱されたコーディネーターを中心に、静岡県東部発達障害者支援センター「アスタ」と連携をしながら、相談援助を実施した。

オ 地域連携支援事業

ウの対象外の障がいを持つ方に対し、当施設の独自事業として、施設・保育所・特別支援学校等へリハビリ等の専門職を派遣し、専門的な技術指導や助言等を行った。

事業	支援内容	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
ア、イ	計画相談等（モニタリング含む）	400回	346回	319回
ウ	施設支援一般指導等	140回	71回	83回
エ	一般相談（地域生活支援事業含む）	800回	655回	749回
オ	施設支援一般指導等	50回	38回	43回

(7) その他の事業（なでしこプラン）無料健康相談

「伊豆医療福祉センターまつり」に合わせて、無料健康相談を実施した。また、幅広い相談に対応できるように、他施設や外部団体との連携強化を図った

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
年間利用者数	15名	12名	9名

(8) 生活に根差したリハビリテーションの提供

重症心身障害児（者）だけでなく、発達障害等の患者が安心して地域で生活できることを目指し、リハビリテーションを提供するとともに、個人の機能・能力の適正評価、多職種との連携、生活を支える人と情報の共有化を図った。

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均外来リハ件数	80名	73名	72名

(9) 薬剤管理指導業務

入所者が服薬している薬剤について、薬剤師が薬学的管理業務を実施して記録を作成し、入所者の御家族等へ送付・連絡した。

なお、定期的に薬剤が処方されていない者等は、対象外としている。

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
毎週平均実施患者数	31名	31名	31名

(10) オンライン診療の実施準備

外来患者や職員の感染防止のみならず、静岡県東部という距離的にも時間的にも遠い分散された地域の特性の中、通院の負担、特に増加する共働き世帯の制約を軽減するために、オンライン診療と対面診療の併用を開始した。

(11) 電子カルテの運用

令和4年3月の導入から2年余が経過し、電子カルテが安定して運用されるようになり、医療情報の記載・表示の簡素化、各科（課）の情報の連携強化、医事・会計業務の効率化が図られたことにより、業務負担が軽減されるとともに、患者・利用者へのサービスが向上した。

基本理念

子どもの最善の利益のため、子どもたち一人ひとりが尊重され、心身とも健やかに育成され将来健全な社会の一員として自立できるように支援を行う。

令和5年度目標及び結果**<児童養護施設>****目標1 県の社会的養育推進計画に合わせた取り組み**

- (1) 1ユニット定員6名の家庭的な環境で子どもたちの生活支援を行う。
- (2) 児童福祉法の理念に基づく県の社会的養育推進計画に沿って、児童養護施設の高機能化・多機能化について、検討し進めていく。

結果 小規模へ移行し3年目となった。家庭的で小規模なユニット形態の生活となり、児童個々の課題やニーズがよりみえるようになってきた。
社会的養育推進計画に則り、新たに伊東市八幡野地区に2棟目となる地域小規模児童養護施設を開所した。

目標2 基本理念に基づき、児童の生活支援及び自立へ向けての取り組み

- (1) 本体施設 36名、地域小規模施設 2施設 計12名
自立支援計画票に基づき児童一人ひとりに合った生活支援を行う。
- (2) 高校卒業後を見据え、自立に向けて支援する。
目標：該当児童2名
- (3) 家庭復帰へ向けて家族との連携及び協働について家族再統合のできる家庭の調整を行う。
目標：3家庭

結果 関係機関と協議し入所児童ごとに自立支援計画を立てた上で支援を行った。
令和5年度措置対象入所児童は 47名（入所理由別内訳）
・虐待による入所 37名 79%
・養護による入所 10名 21%
本体施設の定員36名、地域小規模施設定員12名に対し、年度内の新規入所者は13名、年度内の退所者は13名。内訳は家庭復帰が9名（兄弟ケース2家庭）、他施設及びグループホームに移動が3名、専門学校に1名が進学した。

目標3 里親支援への取り組み

- (1) 里親の研修、実習を積極的に受け入れる。
- (2) 里親の開拓や資質向上のサポートを行う。

結果

- (1) 静岡県から養育里親認定研修事業の委託を受け里親施設研修を実施した。
- (2) 施設と同じく社会的養護を担う里親家庭との連携を強化するため、東部・賀茂地区の里親会に参加した。また里親家庭の子育て相談や一時的休息を図ることを目的に川奈サロンの開催や地域別サロンに参加した。
- (3) 里親相談会として、誰でも気軽に立ち寄ってほしいという思いから、会場を

伊東市内のショッピングセンター内とし、毎月1回のペースで開催し、里親制度を分かりやすく説明する展示や個別相談などを行った。

	実績	
(1) 養育里親認定研修	3組	5名
(2) 里親の開拓や資質向上のサポート	東部・賀茂里親会 サロンの開催・参加	6回 17回
(3) 里親相談会	来場者 相談件数	48名 24回

<病児保育>

目標4 病児保育事業の充実を図る

- (1) 伊東市の委託を受け指定医療機関と連携し、病児に対して疾病からの回復を支援する。
- (2) 関係機関と連携し、周知方法やより利用しやすい方法を整理しながらより多くの市民へ事業の周知を図り、利用者数の増加に繋げる。

結果

- (1) 伊東市内の小児診療を行う医療機関5機関に協力を仰ぎ、伊東市内地区ごと利用しやすいようにした。
- (2) 利用者への情報提供や予約連絡等にスマートフォンやSNSを活用し、連絡方法の幅を広げた。また利用する保護者が安心して預けられるよう日中の様子などをSNSで定時報告する取り組みも始めた。
インフルエンザ感染者の増加等例年になく利用者数が増えた。延べ400人を年間計画し初めて目標数に達した。

目標5 子育て短期支援事業の推進

複数の市町の要請を受け、児童を養育することが一時的に困難な家庭に対し緊急一時的に保護、養育を行い、児童及び家庭の福祉の向上を図る。

結果

伊東市から子育て短期支援事業を受託し、保護者の出産・入院により支援が必要な家庭の児童を4名（延利用人数41名）、家族間調整のレスパイトとして1名5日間の受け入れを実施した。
近隣市町の熱海市からの委託については引き続き協議している。

(1) 児童養護施設運営事業（一種事業）

月別在所児童数（本体と地域小規模施設合算）

（名）

年 月	初日在籍者数	延べ人数	年 月	初日在籍者数	延べ人数
令和5年4月	35	1,056	10月	34	1,053
5月	36	1,116	11月	33	1,062
6月	36	1,081	12月	37	1,147
7月	38	1,176	令和6年1月	37	1,147
8月	36	1,090	2月	39	1,131
9月	34	1,020	3月	39	1,160
			計	434	13,239
			() は前年度	(396)	(12,105)
			月 平 均	36.2	1103.3
			一日平均		36.2

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
本体	36名	25名	27.5名
地域小規模施設わかな	6名	5.2名	5.5名
地域小規模施設あおば	6名	6.0名	
一日平均在所児童数	48名	36.2名	33.0名

(2) 病児保育事業（二種事業）**委**

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
年間利用延べ児童数	400名	519(488)名	368名
月平均児童数	34名	43.3(40.7)名	30.7名

* () 内は委託料に係る伊東市在住延べ人数

(3) 子育て短期支援事業（二種事業）**委**

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
年間延べ利用児数	20名	46名	15名

(4) その他の事業（なでしこプラン）

ア 保護観察対象等が行う社会貢献活動の受け入れ

保護観察所及び地区保護司会と連携し、保護観察対象者の社会貢献活動の場を当学園が提供し継続的に受け入れと支援を行う計画を立てたが、該当する方がいないとのことで実施できなかった。

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
年間受け入れ回数	2回	0回	1回
年間受け入れ延べ人数	16名	0名	11名

イ 退所児童の健康診断補助事業

施設の自立支援担当職員が中心となり施設退所者のアフターケアを継続的に行っているが、生活困窮のため健康診断等を受けていない医療的ケアが必要な退所者はいなかった。

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
年間受け入れ延べ人数	2名	0名	0名

ウ 地域支援事業の推進

伊東市小室地域において住民が安心して暮らせる地域作りに向け、住民と関係機関が連携し、さまざまな地域課題を共有し助け合う社会を育んでいく場の設置検討を目的とした小室地域ふるさと協議会会議に参加した。児童養護施設の特性を生かした児童虐待防止、子育て支援についても協議した。

検討内容	会議方法	回数
前回の内容確認、作業部会について 等	WEB 会議	1回

基本理念

児童福祉法に基づく児童発達支援センターとして、発達の心配な乳幼児の子育て支援・家庭支援の充実を図り、こどもたちの健やかな育ちと安心・安全な生活の実現に努める。

令和5年度目標及び結果**目標1 通園支援事業の充実**

- ・個々の発達状態を踏まえた個別支援計画に基づき、こども・保護者の気持ちに寄り添いながら、集団生活を通して遊びとコミュニケーションの力を育て、生活習慣の自立と社会適応を支援する。
- ・支援の多様化に伴い、希望者には幼稚園・保育園・事業所等との並行通園を実施し、関係機関と連携を取りながらこどもの成長・発達を促していく。
- ・第5期指定管理を受託し利用料金併用制への変更の3年目となる。過去2年間の利用状況を把握し、療育、サービスの質を落とさず収入を上げる方法について運営会議等で検討し、全職員で取り組んでいく。

結果

- ・令和5年度も感染対策を継続し、保護者参加で全体での行事は中止し、1～2クラス毎で実施した。新型コロナウイルス感染症5類移行後、療養期間は短縮されたが、新型コロナウイルス、インフルエンザ、その他の感染症の流行期があり、前年度より利用率は増加したが、目標には届かなかった。
- ・幼稚園・保育園との並行通園や、他事業所との併用者同士を組み合わせ利用してもらおう事で、保護者のニーズに応え、利用率の向上を図った。また、関係機関とは会議や電話等で連携を取り合い、移行支援については、保護者向けに説明会を3回実施し、移行先には情報提供書だけでなく訪問やケース会議、電話等で情報共有の場を設け、より細やかに連携を図るよう努めた。
- ・今年度も清水区からの通園希望児が10名以上となり、ほとんどが送迎車の利用の要望があった為、ワゴン車を2台配車し要望に応えた。済生会カーリース制度を利用してワゴン車1台を新調し、安心安全な送迎を心掛けた。

目標2 職員の資質・意識向上

- ・園内研修（業務マニュアルの理解、障害・発達のとらえ方、保護者対応、移行支援、個別サービス評価等）の充実を図る。引き続き、職員全員にいこいの家の運営方針等を周知徹底させ、より良い支援に繋がるよう意識を高めていく。
- ・研修計画に基づき、新型コロナウイルス感染防止の観点からオンライン研修を取り入れ、職員全員が参加できる体制を整えることで、専門性の高い研修を積極的に受講し、より多くの知識・技術の習得を図る。

結果

- ・重大事故防止の為、業務マニュアルの見直し、整備を行った。また、ヒヤリハット等をリーダー会議で分析、対応の見直し、振り返りを行い、結果を職員全体に周知した。
- ・職員研修計画を整備し、出来るだけ多くの職員が研修に参加できるように配慮し、対面研修への参加も再開した。ペアレント・トレーニングについてはオンデマンド研修を取り入れ、職員全員で視聴し職員間で共有することが出来た。
- ・並行通園児の受け入れについては毎月の運営会議等で検討し、児童発達支援管理責任者が中心となり並行通園児に対応することで利用率の向上を図りつつ、クラス運営も円滑に実施できた。

目標3 地域支援事業（親子教室・保育所等訪問支援事業）の充実

- ・親子教室は、保健センター、あそびのひろば・ぱすてるひろば、静岡済生会療育センター令和、静岡市発達障害者支援センターきらり、小児科医院、こども病院等からの紹介で参加児が増えている。今後も関係機関との連携を密にし、随時受け入れを行い切れ目のない支援を行う。また、新型コロナウイルス感染防止のため小集団（1グループ7名まで）に分けて分散対応を継続する。
- ・保育所等訪問支援事業は、保健師や計画相談事業所、児童発達支援事業所からの紹介が多いため、今後も連携を深めていく。また、保護者から利用希望があれば速やかに支援に繋げていく。

結果

- ・親子教室は、密を防ぐため1グループ7名までとし、前半・後半に分けて実施した。3歳児クラスは満3歳での幼稚園への入園や他の児童発達支援利用に繋がる等で、親子教室を短期間で終了するケースが増加し、利用実績が伸びなかった。一方で、満2歳からの利用希望児は年度後半にかけて増える為、11月から開催日を増やして対応した。
- ・保育所等訪問支援事業は、年間14ケースと契約し支援を実施した。計画相談支援事業所からの紹介が最も多い。次いで保育園・幼稚園からの紹介も多く、これまでの実績の成果を認められ、信頼を得られるようになっている。また、いこいの家との並行通園児への訪問支援も実施し、保護者を含め支援内容や進路について関係機関と連携を深める事が出来た。

目標4 地域福祉事業の充実

- ・「いこいの家通信」を毎月発行し、事業内容を地域自治体や関係機関に伝えて行く。
- ・地域に開かれた施設として、見学・研修・実習・ボランティア等について、新型コロナウイルス感染防止対策をしたうえで受け入れていく。

結果

- ・「いこいの家通信」は行事の内容を写真にコメントを付けて読みやすく記載した。「お母さんの詩」は、平成30年度～令和4年度までの60編を「お母さんの詩 第8集」として編集し、通園児、親子教室利用児、他関係各所に配布し、ホームページでも冊子のお知らせをした。
- ・感染予防のため、散髪奉仕以外のボランティアの受け入れは中止していたが、5類移行後は保育、壁面装飾ボランティアの受け入れを再開した。実習生は同時期に複数人が重ならないよう人数を制限して受け入れた。施設見学は感染予防対策を徹底しながら、施設内やこども達の様子を見ていただいた。また、静岡市公立こども園保育士施設実習や静岡県の重心児者対応研修・実習も受け入れた。

(1) 障害児通所支援事業（二種事業）

ア 児童発達支援通所支援（定員50名）

一日平均在園(通園)児童41.5名を目標に、就学前の心身障害児に対して集団参加を通して、生活と遊びを充実させ、健やかな成長、発達をしていくように支援し、併せて就園・就学に向けての基礎作りをした。令和5年度は8名の並行通園児を受け入れた。

安全管理については送迎車の置き去り防止装置を送迎バス、ワゴン車に設置し、マニュアルも修正した。年度末の3月に静岡市より登降園管理システムの運用が決定となり、本格的な導入は令和6年度からとなる。また、静岡市の中規模改修により外壁

なり、本格的な導入は令和6年度からとなる。また、静岡市の中規模改修により外壁塗装、屋上防水工事等が実施され、建物整備が行われた。

・入園児数（定員）	55名	(54名)
・年間新入園児童数	20名	(24名)
・年間退園児童数	15名	(21名)
・年間延在園（通園）児童数	9,293名	(8,980名)
・一日平均在園（通園）児童数	38.9名	(37.6名)

疾病別人員 令和5年4月1日～令和6年3月31日

病名	年間取扱実人員（名）	構成比（%）
脳性麻痺	3	5.5
自閉スペクトラム症	28	50.9
精神遅滞（発達遅滞を含む）	6	10.9
染色体異常（ダウン症他）	10	18.2
その他	8	14.5
計	55	100.0

月別在園児童数（年間通所日数 239日）

年月	在籍者数	延べ人数
5年 4月	55	793
5月	55	823
6月	55	821
7月	55	733
8月	55	834
9月	55	817
10月	55	830
11月	55	785
12月	54	670
6年 1月	54	613
2月	54	752
3月	54	822
合計	656	9,293
月平均	54.7	774.4
一日平均		38.9

イ 保育所等訪問支援

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
保育所等訪問支援	15件	14件	14件
訪問支援		104件	91件
来所相談		53件	68件
電話相談		423件	497件

(2) 障害児相談支援事業・特定相談支援事業（二種事業）^③

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
障害児支援利用計画 (モニタリング含む)	175件	182件	174件
特定計画相談	0件	0件	0件
一般相談	190件	141件	164件
面談		237件	289件
電話相談		1,685件	1,572件
訪問支援		167件	141件
その他		419件	409件

(3) その他 地域療育支援事業

ア 親子教室 年間 132回 (月平均 11.0回) 登録者数 118名 (127名)

参加児延べ数 目標 1,700名 実績 1,468名 (1,891名)

イ 療育相談の実施(随時) 目標 65名 実績 104名 (93名)

一般相談(電話及び来所) 259名 (411名)

今年度は、新型コロナウイルスやインフルエンザ流行時期は、利用数は少なくなったが、親子教室を中止にすることなく実施できた。

療育相談は、面談時の発達検査等の結果などを踏まえ、家庭での関わり方や進路などについてフィードバックを丁寧に行った。親子教室利用児以外の入園前の面談・療育相談は入園受付係の職員が対応した。(9件)

ウ 地域交流等

夏祭りは通園児・保護者のみで2クラス毎に分散で実施した。

ボランティア受け入れは4年度までは散髪奉仕のみとしていたが、5年度5月から保育や壁面装飾等のボランティア受け入れを再開した。

実習生は、感染対策を徹底し、同時期になるべく複数人が重ならないよう調整して受け入れを行った。静岡市公立こども園の特別支援基礎研修の実習受け入れや静岡県の重症心身障害児者対応支援従事者養成研修の実習受け入れも再開した。

防災関係では、地元町内会の総合防災訓練に施設長が参加した。園内の避難訓練では、広域避難場所の小学校敷地内まで避難する経験を今年度も行った。

- ・いこいの家通信発行 12回 (12回) 292部 (306部)
- ・夏祭り参加者 通園児と保護者のみ2クラス毎で実施 保護者 58名 (49名)
- ・実習生受入 73名 (53名) 延 224名 (253名)
- ・体験研修受入 30名 (2名) 延 30名 (2名)
- ・ボランティア受入 5名 (2名) 団体 9名 (0名) 延 129名 (18名)

基本理念

私たちは、ご利用者一人ひとりの声に耳を傾け、真に、ご利用者の立場に立った支援を実践します。

令和5年度目標及び結果**目標1 施設や住み慣れた地域で、安心して生活できるように支援する**

- ・感染症対策をしっかりと確立し、実行する。
- ・在宅介護サービスから、施設入所まで、包括的に事業を推進する。
- ・第三者評価を受審し、具体的な問題点を把握しサービスの向上に結び付けていく。

結果 感染症対策では、4年度コロナウイルスの大規模クラスターが発生した。5年度もコロナの発生はあったが、拡大を防ぐことができた。コロナウイルスが第5類に移行したことと4年度の経験をもとに、感染拡大に注意しながら事業継続することができた。ハード面で、ワンフロアー・多床室での感染対策の困難さが今後の課題である。

介護保険の入口の地域包括支援センター、在宅サービスのデイサービス、訪問介護により、在宅での暮らしを支援することができた。急な問題が生じても利用していることにより円滑に短期入所で対応することができた。

第三者評価を受審。改善が望まれる課題が明確になった。

目標2 地域の福祉活動を支える

新しい生活様式のもと、*「小鹿苑カフェ」を地域の居場所として再構築する。

*「小鹿苑カフェ」公的サービスとは別に地域貢献事業として、地域に住む住民誰もが人と人の触れ合いを通じ、地域で暮らす安心感や関係性を育む居場所の提供として平成29年9月から開催(第1・3金曜日の午前中開催)

結果 一年を通し、計画どおり「小鹿苑カフェ」を実施することができた。天気が悪い開催日でも20人以上の参加がある。各サービスの職員がかかわることにより、次のサービスにつなげることができた。プログラムの中で職員の指導による体操は人気がある。参加者のフレイル対策に体を動かす、人とのコミュニケーションをとることが意識されている。

目標3 稼働率の向上を図り、安定した運営を目指す

- ・事業計画の目標に向けて、職員一人ひとりが努力する。
- ・L I F E (科学的介護情報システム)を活用し、科学的な介護を推進する。

結果 入所部門においては、稼働率を上げることができた。通所部門においては、感染症対策の影響で稼働率を伸ばすことができなかつた。しかし事業継続計画に基づいて休止することはなかつた。今年度より、L I F Eのフィードバック情報が入り、事業の評価に役立っている。

目標4 人材を確保し職員のスキルアップを図る。

- ・実習生へきめ細かい指導を行い、雇用に繋げる。
- ・介護技術の向上と標準化により、サービスの質の向上を図る。

結果 各事業で多くの実習生の受入れを行った。介護・福祉の啓発活動を行ったが、雇用という意味では、違う産業を希望する学生が多く厳しい状況となった。

4年度までは、感染対策により集合型の研修に参加が少なかったが、5年度は多くの研修に参加することができた。オンライン研修との併用により、多くの研修に参加することができ、技術向上の場が与えられた。

(1) 特別養護老人ホーム運営事業（一種事業） 80名定員（80名）

経営の健全化のため空床率の削減に努めた。

要介護認定者で、常時介護を必要とし、自宅で生活することが困難な方に対し、適切な健康管理のもとに、良質な施設サービスを提供することができた。

・年間延べ利用者数	28,995名	(27,756名)
・年間新入所者数	46名	(36名)
・年間退所者数	45名	(35名)
・入所者平均年齢	85.9歳	(85.1歳)
・平均介護度	3.83	(4.08)
・新規入所申込	101件	(74件)
・入所希望者(年度末現在)	78名	(85名)

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均延利用人数	79名	79.4名	76.0名

疾病別人員 令和5年4月1日～令和6年3月31日現在

病名	年間実人員(名)	構成比(%)
脳卒中等	22	17.6
認知症等	75	60.0
リウマチ、脊椎症等	2	1.6
その他	26	20.8
計	125	100.0

(2) 老人短期入所事業（二種事業） 定員20名（20名）

昨年度より、稼働率は大幅に伸ばしたが、目標には至らなかった。

新型コロナウイルス感染症の陽性者が発生するも感染拡大を防ぐことができ、事業を休止することはなかった。

・年間延べ利用者数	2,953名	(2,665名)
・年間実利用者数	352名	(283名)
・利用者平均年齢	87.2歳	(87.3歳)
・平均介護度	要介護 2.93	(3.41)

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均延利用人数	12名	8.1名	7.3名

(3) 通所介護部

ア 老人デイサービスセンター（通所介護事業）（二種事業）定員一日35名（35名）

新型コロナウイルス感染症は第5類移行後も、家族の濃厚接触・感染予防のため、利用控えが多く発生した。しかしクラスターにはならず、事業を休止することはなかった。

*コロナフレイル予防のため、自主的生活の助長、孤立感の解消、心身機能の維持向上を図った。

*「コロナフレイル」とは、新型コロナウイルス感染症流行による外出自粛の長期化に伴い、「生活不活発（動かないこと）」になった結果、体力・気力が低下して一気に老化が進むこと。

・年間延べ利用者数	5,706名	(5,832名)
・年間実利用者数	523名	(546名)
・年間実施日数	308日	(308日)
・利用者平均年齢	87.7歳	(87.3歳)
・平均介護度	要介護 2.3	(3.0)

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均延べ利用人数	23名	18.5名	19.0名

イ 介護予防・日常生活支援総合事業（公益事業）

要支援者・事業対象者で日常生活に支障がある方に対して、日帰りで各種サービスを提供する「通所介護相当サービス」を行った。

・年間通所相当延べ利用者数	263名	(353名)
・年間通所相当実利用者数	35名	(53名)
・年間通所相当実施日数	308日	(308日)

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
月平均実利用者数	10名	2.9名	4.4名

（4）訪問介護部

ア 老人居宅介護等事業（訪問介護事業）（二種事業）

要介護認定者で日常生活に支障がある方がいる家庭に対し、ヘルパーを派遣し、日常生活の支援を行った。認知症で独居の方のサービスご利用希望が増えている。

・年間延べ利用者数	3,383名	(3,155名)
・年間実利用者数	488名	(474名)
・年間活動日数	308日	(308日)
・利用者平均年齢	85.3歳	(83.6歳)
・平均介護度	要介護 1.8	(1.8)

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均延べ利用人数	17名	10.9名	10.2名

イ 介護予防・日常生活支援総合事業（公益事業）

要支援者・事業対象者で日常生活に支障がある方に対して、日帰りで各種サービスを提供するホームヘルパーを派遣し日常生活を支援する「訪問介護相当サービス」を行った。

・年間訪問相当延べ利用者数	2,081名	(2,422名)
・年間訪問相当実利用者数	370名	(392名)
・年間訪問相当実施日数	308日	(308日)

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
月平均実利用者数	30名	30.8名	32.7名

(5) 居宅介護支援事業（公益事業）

5名のケアマネジャーが稼働し、ケアプランを作成した。地域包括支援センターから予防ケアプランの受託作成を行う等の連携を図った。

・年間ケアプラン給付管理者延べ数	2,193 件	(2,281 件)
・ケアマネジメント延べ数	129 件	(131 件)
・ケアプラン新規作成者	56 名	(77 名)
・平均介護度	要支援 1.48	(要支援 1.66)
	要介護 2.12	(要介護 2.11)

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
月平均件数	183 名	193.5 名	190.0 名

(6) 地域包括支援センター運営事業（公益事業）委

静岡市からの受託事業として、西豊田、東豊田、東源台小学校区の高齢者及び地域住民からの相談解決のために制度やサービスを紹介し、関係機関等につないだ。

また、介護保険要支援認定者等の予防プラン作成や支援困難ケースの解決のために、関係機関や自治会、民生委員との連携を図り、地域ケア会議を開催した。

・年間延べ相談者数	2,385 名	(2,173 名)
・介護予防支援（直営・委託）	3,817 件	(3,595 件)
・介護予防ケアマネジメント（直営・委託）	2,200 件	(1,921 件)
・年間活動日数	308 日	(308 日)

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
月平均数	400 名	501.4 名	459.7 件

(7) 奨学金貸与事業（公益事業）

奨学金貸与した外国人2名のうち、1名が令和4年度から当苑で勤務している。

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
年間貸与延べ人数	1 名	0 名	0 名

月別 利用者（件）数

区分	特養		短期		デイサービス		通所相当		ホームヘルパー		訪問相当	
	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数
4月	81	2,344	21	161	42	458	4	27	39	250	29	155
5月	80	2,457	24	191	43	520	4	29	42	312	28	165
6月	84	2,397	29	197	40	474	3	26	41	319	28	171
7月	82	2,463	27	194	39	467	3	23	42	256	31	171
8月	84	2,448	25	193	42	520	3	20	39	283	36	208
9月	82	2,399	29	212	46	446	2	16	39	275	33	187
10月	86	2,479	33	265	48	513	2	17	42	291	33	181
11月	82	2,386	31	293	46	466	3	22	41	300	32	184
12月	84	2,441	37	309	45	459	3	20	41	268	33	174
1月	83	2,417	34	343	45	435	3	21	42	269	30	163
2月	84	2,287	30	216	44	482	3	20	41	278	29	168
3月	81	2,477	32	377	43	466	3	22	39	282	28	154
合計	993	28,995	352	2,953	523	5,706	35	263	488	3,383	370	2,081
月平均	82.8	2,416.2	29.3	246.1	43.6	475.5	2.9	21.9	40.7	281.9	30.8	173.4
1日平均	79.4		8.1		18.5		19.4		10.9		17.6	
					19.4							

区分	居宅		居宅総合	地域包括				包括総合	
	支援件数	介護件数	ケアマネジメント	直営	委託	相談実数	相談延べ数	直営	委託
4月	35	147	10	44	262	102	175	27	143
5月	36	148	10	46	262	120	209	30	143
6月	33	145	11	44	269	111	207	29	153
7月	35	156	12	43	272	126	238	33	152
8月	35	161	11	50	267	126	238	30	150
9月	34	158	11	45	267	110	192	29	153
10月	33	157	11	43	268	123	269	32	156
11月	33	154	11	41	278	108	167	39	152
12月	35	148	11	42	286	90	177	38	158
1月	34	143	10	40	287	104	185	36	151
2月	33	134	10	42	289	98	148	38	142
3月	33	133	11	50	280	104	180	40	146
合計	409	1,784	129	530	3,287	1,322	2,385	401	1,799
月平均	34.1	148.7	10.8	44.2	273.9	110.2	198.8	33.4	149.9
1日平均	7.1		0.03	12.4		7.7		7.1	

基本理念

あなたがあなたらしく 私が私らしく
～ユニット環境を生かして、個性豊かな生活を支援します～

令和5年度目標および結果**目標1 本人、家族に寄り添った思いやりのある介護サービスの提供**

- ・特養では「できない」を「できる」ようにしていく。
- ・面会、月例のお手紙、体調変化時の連絡、看取り期の対応など丁寧な対応を継続していく。

結果

- ・看護師が少ない状況ではあったが、血糖測定やインシュリン注射等を必要とする方も積極的に受け入れたことから医療依存度が高めな方の相談を受ける機会が増え、胃瘻・経鼻経管栄養の方の紹介にも繋がった。長期96名中、最大13名が経管栄養者という時もあった。
- ・令和5年度は30名退所のうち半数を施設で看取ったが、丁寧な対応を心掛けたことから退所手続きの際にはご家族様より感謝のお言葉を頂いている。死亡診断は時間帯により担当する医師を分けているが、静岡済生会総合病院に隣接していないため、小鹿苑のような体制がとれないことが大きな課題となった。

目標2 根拠に基づいた科学的介護サービスの提供と新たな加算の取得

- ・LIFEのフィードバックデータを活用した根拠のある介護を計画的に提供していく。
- ・管理栄養士を増員し、栄養マネジメント強化加算と経口維持加算Ⅰ・Ⅱを取得する。

結果

- ・静岡済生会総合病院精神科医師の了承も得て「精神科医師による療養指導加算」の取得を検討していたが、看護師の退職から加算取得に至らなかった。看護師が充足され次第、再度医師に相談する予定である。
- ・認知症ケア加算については、取得条件である研修の受講が複数年に跨ることから令和8年度の取得に向け、6年度より計画的に受講とする。
- ・管理栄養士については人材紹介会社からの斡旋等はあるものの高額の紹介料から配置には至らなかった。介護保険法の改正により、口腔衛生管理の強化に対応する職種の配置も検討しなければならない。

目標3 安心できる防災対策

- ・*BCPを随時見直し、研修や訓練を通じて周知していく。
- ・*BCP (Business Continuity Plan) とは災害や感染症の大流行、テロ事件など、不測の事態が発生した際にも重要な事業を中断させない、あるいは早期復旧を図るための事業継続計画のことです。介護事業においては「業務継続計画」と呼ばれ、2021年度の介護報酬改定で計画の策定と研修・訓練(シミュレーション)の実施が義務付けられました。
- ・被災した職員に対する支援が速やかに行えるようにしていく。

結果

- ・BCPについては、感染症対策も踏まえた訓練の実施と毎月夜勤者を対象に防災訓練や防災教育を行っていることから指導監査でも高い評価を得た。本部の災害対策課職員を講師に招き研修会を行った際に指摘された、自家発電機器の整備に

ついて検討を進めていく。

目標4 「なでしこカフェ」の新しい形での開催

- ・入場者数を制限、開催時間を短縮、飲食なし、利用者同士の接触なし、歌唱合唱なしなど感染症に配慮した催しを企画していく。

結果

- ・なでしこカフェについては、施設内での面会等利用制限を継続する中での再開はできなかった。出前講座など外部へ赴いての講座を開催した。また、新しい形として、静岡市社会福祉協議会・地域福祉推進センターのアドバイスと東豊田地区社会福祉協議会（小鹿サポーターズ）の協力により「小鹿ウエスの会」を立ち上げるようになった。カフェと異なり居場所となるだけでなく、ウエスを作ることは*SDGsに繋がり、作ったウエスをなでしこ苑をはじめ近隣の施設で使ってもらうことで参加者の生き甲斐にも繋がるであろうと考える。令和5年度内に開催することはできなかったが、6年度より毎月第三火曜日に開催する予定となっている。

*SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない (leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標

(1) 特別養護老人ホーム運営事業（一種事業） 定員 96名 (96名)

在宅から施設での生活への環境の変化に対応が難しい新規入所者も多く、体調の悪化から退所となるなど、満床状態の維持が難しかった。

・年間延べ利用者数	33,776名	33,849名
・年間新入所者数	29名	(30名)
・年間退所者数	31名	(31名)
・一日平均入所者数	92.3名	(92.7名)
・入所者平均年齢 (R5. 3. 31 現在)	85.5歳	(85.3歳)
・平均介護度	4.2	(4.3)

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均入所者数	94名	92.3名	92.7名

(2) 短期入所事業（二種事業） 定員 13名 (4名)

欠員となる職員の未充足等から勤務体制の確保が困難な状況が続き、受け入れ態勢が整わなかった。

・年間延べ利用者数	23名	(457名)
・一日平均利用者数	0.06名	(1.24名)
・利用者平均年齢 (R4. 3. 31 現在)	90歳	(90歳)
・平均介護度	4.0	(4.00)

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均利用者数	3名	0.06名	1.2名

月別利用者数

(名)

	特 養		短 期	
	月末 入所者数	入所者延べ人数 ※	実人数	利用者 延べ人数
令和5年4月	94	2,783	1	23
5月	95	2,829	0	0
6月	94	2,785	0	0
7月	95	2,911	0	0
8月	94	2,925	0	0
9月	95	2,801	0	0
10月	92	2,791	0	0
11月	95	2,741	0	0
12月	94	2,888	0	0
令和6年1月	94	2,837	0	0
2月	93	2,665	0	0
3月	93	2,820	0	0
合計		33,776		23
一日平均		92.3		0.06

※介護報酬を算定している人数

(3) 奨学金貸与事業（公益事業）

奨学金貸与した外国人2名のうち、1名が令和4年度から当苑で勤務している。日本人介護人材確保の困難が依然として続く中、外国人を正規職員として雇用する難しさ（教育・文化等）を経験しているだけに毎年の制度の活用については検討を要する。

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
年間貸与延べ人数	1名	0名	0名

(4) その他事業（なでしこプラン）

新型コロナウイルス感染症第5類移行後の再開を検討していたが、施設内での面会時間及び人数について制限を継続している中では、再開に繋がらなかった。

出前講座は、大里中にて1回、大里東自治会にて2回、合計103名を対象に実施した。

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
年間延べ人数	100名	103名	0名

基本理念

「あなたらしさを応援します」

～人権を尊重し、日々有効なサービスを展開します。そして常に生活の豊かさを求めます。～

令和5年度目標及び結果**目標1 サービスの向上に努める**

- ・福祉サービス第三者評価を受審し、サービスの見直し、向上につなげていく。
- ・感染症対策、防災対策等に取り組み、安心安全なサービスを提供する。
- ・利用者がより豊かな生活できるように個別支援計画に沿ったサービスを提供する。

結果 福祉サービス第三者評価を受審し、「利用者本位の福祉サービス」などに高い評価を得たが、いくつかの改善点が指摘された。今後も、継続的な改善への取り組みに努め、利用者サービスの向上を目指していく。

新型コロナウイルスによる集団感染が10月と2月に2度発生したが、職員の感染対策の徹底やゾーニングの適時適切な工夫などにより、大事に至らず乗り切ることができた。この経験を今後の感染症対策に生かしていく。

目標2 施設の安定的な運営を図る

- ・65歳以上の入所者の介護保険施設への移行を進めていく。
- ・短期入所利用者、通所利用者の獲得に向けて、広報活動、相談支援事業所等との関係強化を行う。
- ・指定管理施設を民営化する静岡市の方針に対して、支部事務局とともに、法人として利用者の利益を最優先に対応していく。

結果 65歳以上の入所者の介護保険施設への移行は、ご家族への案内を行ったが、利用者の意向もあり思うように進めることができていない。

短期入所や通所利用者の獲得に向け、事業所が集まる会合などで施設紹介など行ったが、市の条例が定める基準を満たす新規の利用者を獲得することができなかった。市に現在の経営状況等を説明し、民営化に係る課題を共有することができた。

目標3 働きやすい環境づくり

- ・業務の見直しを行い、効率化を図る。
- ・人材確保、人材育成に取り組み、働きやすく、働きがいのある職場を目指す。
- ・* 5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・躰）に取り組み、清潔で働きやすい職場を作る。

* 5S活動とは、掃除や片付けによる職場環境をきれいにする美化活動ではありません。整理・整頓・清掃・清潔・躰を通じて、職場の抱える課題を解決するための改善活動です。

結果 業務改善委員会においてアンケートや検討を行い具体的な成果もあったが、まだ取り組むべき課題が多い。人員不足を補うことができなかったこともあり、業務の量的負担を感じる職員が多かった。

5S活動については、研修などを通しその意識を浸透させることはできたが、職場としての成果はまだ十分ではない。今後も働きやすい職場を目指し、引き続き一つひとつ取り組んでいく。

(1) 障害者支援施設（一種事業）（施設入所支援 50 名、生活介護 80 名）・ ・ 指

ア 施設入所支援（定員 50 名）、生活介護（入所）（定員 50 名）

新型コロナウイルスによる集団感染が2度発生した。面会や外出の制限は、感染の流行状況に応じ、徐々に緩和していった。昨年度同様に長期入院者があり、同程度の実績となった。

- ・ 新規入所者数 1 名 (2 名)
- ・ 退所者数 1 名 (2 名)
- ・ 延べ利用者数 施設入所支援 17,986 名 (17,907 名)
生活介護 12,777 名 (12,808 名)

一日平均利用人数	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
施設入所支援	49.8 名	49.1 名	49.1 名
生活介護	49.8 名	49.1 名	49.1 名

疾病別人員 令和5年4月1日～令和6年3月31日

病 名	実人員 (名)	構成比 (%)
脳血管障害	1	2.0
脳性麻痺	20	39.2
脳外傷 (頭部外傷)	5	9.8
脊髄損傷	3	5.9
頸髄損傷	4	7.8
下肢機能障害 (上記以外)	6	11.8
特定疾病 (難病等)	4	7.8
その他	8	15.7
計	51	100.0

平均年齢	平均入所期間	平均障害支援区分
59.9 歳	12 年 8 カ月	5.5

月別利用者数 (入所支援日数 366 日・生活介護日数 260 日) 単位:名

	入所支援		生活介護			入所支援		生活介護	
	人数	延べ人数	人数	延べ人数		人数	延べ人数	人数	延べ人数
5 年 4 月	50	1,476	50	984	10 月	50	1,519	49	1,078
5 月	50	1,507	49	1,119	11 月	50	1,470	49	1,078
6 月	50	1,470	49	1,078	12 月	50	1,519	49	1,029
7 月	50	1,531	50	1,037	6 年 1 月	49	1,519	49	1,127
8 月	50	1,550	50	1,150	2 月	50	1,431	50	1,036
9 月	50	1,495	50	1,046	3 月	50	1,499	49	1,015
					合 計	599	17,986	593	12,777
					月平均	49.9	1,498.8	49.4	1,064.8
					一日平均	—	49.1	—	49.1

イ 生活介護(通所) (定員 30 名)

新規利用者が2名あったが利用日数が少なく、利用実績増にはつながらなかった。また、体調不良等で欠席者が昨年度より多く、利用実績は昨年度を下回った。

- ・実利用人数 33名 (36名)
- ・新規利用者数 2名 (1名)
- ・退所者数 3名 (4名)
- ・年間延べ利用者数 4,510名 (4,745名)

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均利用人数	24.5名	18.6名	19.6名

月別利用者数 (年間開所日数 243日)

単位:名

	初日 在籍者数	延べ人数		初日 在籍者数	延べ人数
5年4月	32	364	10月	34	402
5月	33	391	11月	33	380
6月	34	415	12月	33	362
7月	34	388	6年1月	32	351
8月	34	391	2月	31	337
9月	34	368	3月	31	361
			合計	395	4,510
			月平均	32.9	375.8
			一日平均	—	18.6

(2) 日中一時支援事業 (公益事業) 【生活介護 (通所) 空床利用】 (指)

日中における一時的な見守り、その他の支援を必要とする障害者に対し、送迎・入浴・食事のサービスを提供する事業であるが、利用者はなかった。

- ・実利用人数 0名 (0名)
- ・年間延べ利用者数 0名 (0名)

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均利用人数	空床利用	0名	0名

(3) 障害福祉サービス事業 (短期入所) (二種事業) 定員5名 (指)

年間を通し、家族の急な疾病等など緊急の要請にも応じ、新規利用者の受入に努めたが、10月と2月に起きた2度の新型コロナの集団感染発生により、利用者の受入を控えた影響もあり、昨年度と同程度の実績となった。

- ・実利用人数 31名 (28名)
- ・年間延べ利用者数 1,185名 (1,137名)

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均利用人数	4.0名	3.2名	3.1名

月別利用者数

(年間開所日数 366日)

単位:名

	日中一時		短期入所			日中一時		短期入所	
	人数	延べ人数	人数	延べ人数		人数	延べ人数	人数	延べ人数
5年4月	0	0	16	86	10月	0	0	14	81
5月	0	0	14	90	11月	0	0	14	143
6月	0	0	18	100	12月	0	0	16	127
7月	0	0	17	93	6年1月	0	0	15	125
8月	0	0	16	110	2月	0	0	6	35
9月	0	0	15	125	3月	0	0	13	70
					合計	0	0	174	1,185
					月平均	0	0	14.5	98.8
					一日平均	—	0	—	3.2

(4) 静岡市桜の園城北館 障害福祉サービス事業(生活介護)(二種事業)定員20名(指)

新規利用者がなく、1名の利用者が他施設に入所のため退所となったことにより、昨年度を下回る実績となった。各区で開催された相談支援事業所連絡会において、新規利用者の獲得に向け働きかけを行ったものの、利用につながっていない。

- ・実利用人数 17名 (18名)
- ・新規利用者数 0名 (0名)
- ・退所者数 1名 (1名)
- ・年間延べ利用者数 2,789名 (3,057名)

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均利用人数	14.0名	11.5名	12.6名

月別利用者数(年間開所日数 243日)

単位:名

	初日			初日	
	在籍者数	延べ人数		在籍者数	延べ人数
5年4月	17	245	10月	16	236
5月	17	246	11月	16	214
6月	17	267	12月	16	212
7月	17	230	6年1月	16	207
8月	17	257	2月	16	214
9月	17	231	3月	16	230
			合計	198	2,789
			月平均	16.5	232.4
			一日平均	—	11.5

基本理念

私たちは、あなたと社会をつなぎ、あなたの自立生活を応援します。

令和5年度目標及び結果**目標1 利用者様の人権や個性を尊重し、自立を目標にしたサービスの質向上**

結果 (1) 第三者評価受審の結果を踏まえ、課題の抽出と改善に取り組んだ。

評価結果の課題としてあげられた「定期的」「継続的」について、委員会を定期的に開催し、マニュアルや要綱の見直しを行い、共有に努めた。自己評価を年1回実施し、課題の抽出、見直しを行ったが、項目、表現等に課題が残った。

(2) 3か月ごとに実施するアセスメント・モニタリング結果に基づいた個別支援計画の作成と訓練の実施など、利用者の意向に基づき実施した。

(3) 利用者の意向、訓練の必要性の有無をサービス管理責任者を中心に理学療法士(PT)・看護師等と検討、実施した。見える化の取り組みとして、今後、社会生活の自立度評価指標(SIM)に基づく効果測定を行うことで成果の見える化及び加算の獲得にもつながるため、前向きな検討が課題となる。

延べ利用者数： 個別訓練 2,133名 (1,922名) PT訓練 1,703名 (1,580名)
OT訓練 357名 (379名) ST訓練 25名
施術 409名 自主トレーニング 425名 (1,620名)

(4) 研修への参加や勉強会の実施、関係機関との連携により、専門性を身につけるよう努めた。研修計画に基づき、下記の研修について25名の職員が(延べ201名)目的をもって参加した。

- ・コンプライアンス・感染症関係・人権・虐待・ハラスメント・AED
- ・加算に関わる研修・支部内研修・介護技術・利用者からの意見に基づく研修等

目標2 地域社会への貢献を促進し、地域に開かれた施設の構築

結果 (1) 広報活動を通じて、当事業所で実施しているヨガ教室に近隣住民の参加もあり(計12回146名参加内25名が地域の方)、地域で気軽に身体を動かすことができる場の提供を実施するなど、公益的活動にも積極的に取り組んだ。また、屋外清掃活動(クリーン活動)を実施し(計7回延べ27名参加)、地域ニーズの一環を担うことができた。

城東町手作り作品展への2回目となる参加をし、地域との顔の見える関係作りにも努めた。

(2) 当施設がある城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟と同じ1にある静岡市地域福祉交流プラザ(静岡市社会福祉協議会 葵区地域福祉推進センター)からの情報提供や紹介を受け、エリアボランティア等によるボランティア活動を受け入れ、延べ38名の地域の方に対し、障害のある方とふれあい、理解を進める機会を提供した。

目標3 安心・安全なサービスの提供

結果 (1) 感染症への対策として、感染対策委員会を中心に、国の指針に基づき、研修や訓練を実施し、産業医・感染管理認定看護師等の指導・助言を受け対応を継続した。

(2) リスクマネジメント体制の構築のため、リスクマネジメント委員会を開催し、ヒヤリハット、事故等考えられるリスクについて取り組み、問題意識の共有に努めた。

ヒヤリハット：48件(転倒、転落、薬関係、無断外出等)

事故報告：23件(転倒、転落、車両、破損)

転倒・転落についてはヒヤリハット・事故報告共に最も件数が多かった。薬関係はヒヤリハットの改善により事故の防止に繋がった。車両・破損については、職員の意識またはハード面での改善や、「ヒヤリハットの気づきに気付く」ことが今後の課題である。

目標4 常に経営の安定化を目指す

結果(1) 適正な職員配置の維持に努めた。

(2) ヨガ教室を通じ地域の福祉ニーズの一環を担うことにつながった。

ケアセンターサロン(月1回利用者から直接意見、要望を伺う場・計8回24名参加)、サービス管理責任者によるモニタリング時に実施する意見・要望の確認、意見箱の活用等、利用者アンケート(年1回)を実施することにより、利用者ニーズの把握、検討、改善等を通じ満足度向上に努めた。

(3) 研修目的に沿った職員の参加に努め、職員のキャリアアップに努めた。また、研修毎にアンケートの実施または、目標設定、自己評価、施設長コメントにてフィードバックを行った。年間62回の研修に対し、延べ201名が参加した。

(4) 年4回の広報誌の発行、同事業所内委託相談、相談支援専門員等とのつながりを活用し新規利用につなげることができた。今後は利用者像を絞り、営業の場を確立することが課題となる。

(5) 昼休みの消灯、種々の再活用を実施し節電・節約に取り組んだが、光熱費は市の負担の為、達成感を実感するには至らなかった。

静岡市心身障害者ケアセンターは、静岡市の指定管理者として自立訓練(機能訓練・生活訓練)を実施し、サービス支給期間が終了した後、継続利用を希望する方については、空席利用として日中一時支援事業を提供した。

指定管理期間4年目である令和5年度は、利用者のニーズに応えるべく、あん摩マッサージ指圧師を機能訓練指導員として1名配置し、これまで静岡済生会療育センター令和から派遣されていた理学療法士から、静岡済生会総合病院より出向となった理学療法士に変更となったことで、多くの時間を共有し、今まで以上に利用者の生活に即したリハビリを提供し、その結果利用者ニーズの充足とサービス向上につながった。

併設の障害者生活支援センター城東は、静岡市より委託業務を受託した。加えて、特定相談・障害児相談支援事業を実施した。

(1) 障害福祉サービス事業(指)

ア 自立訓練(機能訓練)(二種事業)(定員20名)

機能訓練の利用者は、身体機能の維持・向上、生活上の必要な訓練を、静岡済生会療育センター令和から訓練スタッフの派遣を受けて実施した。

区分	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均利用者数	12名	12.9名	11.1名

月別利用者数

(年間開所日数 240 日)

区 分		機能訓練		区 分		機能訓練	
年 月	実人員(名)	延べ人数(名)	年 月	実人員(名)	延べ人数(名)		
5年4月	32	259	6年1月	33	246		
5月	30	278	2月	30	252		
6月	29	281	3月	29	265		
7月	30	250	合 計		3,089		
8月	29	259	月平均		257.4		
9月	27	238	一日平均		12.9		
10月	29	240			(11.1)		
11月	31	253					
12月	33	268					

イ 自立訓練（生活訓練）（二種事業）（定員 10 名）

生活訓練の利用者は、地域生活や環境面での困難さを抱えて生活されている方等、障害特性による配慮の必要な方が利用された。

区 分	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均利用者数	9.5名	9.0名	9.8名

月別利用者数

(年間開所日数 240 日)

区 分		生活訓練		区 分		生活訓練	
年 月	実人員(名)	延べ人数(名)	年 月	実人員(名)	延べ人数(名)		
5年4月	27	187	6年1月	25	128		
5月	25	181	2月	22	147		
6月	29	237	3月	20	137		
7月	29	209	合 計		2,148		
8月	28	209	月平均		179.0		
9月	26	180	一日平均		9.0		
10月	25	186			(9.8)		
11月	26	174					
12月	25	173					

(2) 日中一時支援事業（公益事業）（空席利用）㊦

事前予約制に切り替えた。自立訓練終了後、ご利用希望の方を受け入れた。

区 分	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均利用者数	3.5名	2.1名	2.7名

月別利用者数

(年間開所日数 240 日)

区 分		日中一時支援		区 分		日中一時支援	
年 月	実人員(名)	延べ人数(名)	年 月	実人員(名)	延べ人数(名)		
5年4月	10	37	6年1月	9	37		
5月	10	39	2月	9	45		
6月	10	46	3月	9	46		
7月	10	42	合 計		498		
8月	10	46	月平均		41.5		
9月	10	40	一日平均		2.1		
10月	10	45			(2.7)		
11月	10	41					
12月	10	34					

(3) 特定相談支援事業・障害児相談支援事業（二種事業）委

ア 障害者等相談支援事業

障害者生活支援センター城東は、身体障害を中心に在宅の障害者・家族の相談に関わり、必要な機関との連絡・調整を行い、支援を行った。

(ア)年間相談延べ件数 4,164件（内、ピアカウンセリング 174件）(4,617件)
 年間相談延べ人員 925名（内、ピアカウンセリング 84名）(826名)
 (年間開所日数 243日)

区 分	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均実件数	10件	11.1件	11.8件

(イ)その他の活動 身体障害者生活支援事業 110回 (105回)
 ・社会資源を活用するための支援（外出支援等） 57回 (54回)
 ・社会生活力を高めるための支援（パソコン教室） 53回 (51回)
 (ウ)参加会議 主催した個別支援会議 73回 (63回)
 参加した個別支援会議 61回 (51回)
 連絡調整会議等 21回 (22回)

イ 障害福祉サービス等の利用計画の作成（特定相談・障害児相談支援）

障害者生活支援センター城東は、静岡市の「指定相談支援事業所」として、障害福祉サービスの利用（身体・知的・精神）に関するサービス利用計画書及びモニタリングを作成した。

サービス等利用計画及びモニタリング作成件数 (年間開所日数 243日)

区 分	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
月平均サービス利用計画書及びモニタリング作成件数	46件	48.7件	46.5件
年間件数	552件	584件 ※内児童 22件	558件 ※内児童 27件

15 ワーク春日

基本理念

明るく楽しく働くあなたを応援します。

令和5年度目標及び結果（就労継続B型事業所）

目標1 経営の安定を図る

- ・利用者の気持ちに寄り添い、一人ひとりの通所日数が増えるようにする。
- ・軽作業では、作業効率の向上を図り、受注量を増やすなどの工夫をし、工賃の向上を目指すとともに経営の安定を図る。

結果 一人ひとりの利用日数が増えるように努め、4名の利用者は日数を増やすことができたが、6名の利用者が退所することとなった。

軽作業の受注量を増やすことで、作業の種類が増え、利用者が出来る作業が増えていった。

就労継続支援B型に係る基本報酬の算定区分に関する届出書の算定方法の変更があり、平均工賃は2万円を超えることができた。

目標2 作業内容の検討

- ・新規授産事業について検討し、将来的な導入に向けて試験的に実施する。
- ・授産品展示即売を行う「福祉楽市」への参加をふまえ、自主製品を手掛けていく。
- ・点字印刷が減る中、視覚障害者の方に提供できる作業を検討する。

結果 新規の事業所との取引も増え、軽作業の受注は増えている。点字作業の減産分を補うことができるかを今後も検討していく。

軽作業が多くなる中、視覚障害者の方ができる作業も増えてきた。

自主製品として、利用できなくなった封筒や紙類を使いメモ帳やノートを作成。「福祉楽市」での販売や「済生会フェア」の景品として使用してもらうことができた。

目標3 「済生会障がい者就労支援協議会」の当番県としての役割を担う

- ・今年度、開催予定である「済生会障がい者就労支援協議会」の開催当番県として、協議会での検討課題の取り纏め及び運営を行う。

結果 「済生会障がい者就労支援協議会」の当番県として静岡県済生会支部や、他施設の協力のもと、10月12、13日に開催し、協議会の運営を行った。検討課題に対する助言も得ることができ、今後の運営や授産事業などに生かしていく。

目標4 職員間の担当の見直しを行う

- ・点字編集など、専門職にも正規職員が参加するなどの業務の見直しを行い、パート職員の離職が無くなるような取り組みを行う。

結果 業務の見直しを行い、点字編集のみを行うのではなく、正規職員とともに点字作業、軽作業を行えるパート職員の育成を行った。

(1) 就労継続支援事業B型（二種事業）（定員30名）

4名の利用者の通所日数を増やすことはできたが、入院や、引っ越しなどで退所する方が6名となったため、利用者獲得に向け、病院等へ訪問を行った。

平均工賃については、算定方法が変更したこともあり、2万円を超えた。

しかし、授産事業の点字作業の減産分は、軽作業が増えたとはいえ、補えてはいない状態である。軽作業の受注を増やすとともに、単発での点字作業も問い合わせがあるので、点字作業が出来る事業所として広報活動に力を入れていく。

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均利用人数	27.5名	24.7名	25.6名
平均工賃月額	—	21,718円	16,084円

●月別利用者数

(名)

	利用登録者数	新規利用者数	退所者数	開所日数	利用延べ人数	一日平均利用者数
令和5年 4月	33	0	1	20	489	24.5
5月	35	3	0	20	486	24.3
6月	35	0	0	22	563	25.6
7月	35	0	1	20	517	25.9
8月	34	0	1	21	502	23.9
9月	33	0	0	20	482	24.1
10月	33	0	1	21	543	25.9
11月	32	0	0	20	484	24.2
12月	32	0	0	20	497	24.9
令和6年 1月	32	0	0	19	479	25.2
2月	32	0	1	19	468	24.6
3月	31	0	0	20	472	23.6
合計	---	3	5	242	5,982	24.7

●障害別利用者数 (名)

令和5年4月1日～令和6年3月31日

		男	女	合計	(備考)
身体障害	視覚	1	6	7	知的との重複1名
	肢体不自由	12	5	17	知的との重複1名
	内部	1	1	2	
知的障害		1	3	4	身体との重複1名
精神障害		2	3	5	身体との重複1名
合計		17	18	35	

(2) 福祉ホーム事業 (二種事業) (定員6名)

静岡市との協議の結果、今後も福祉ホーム継続の要望もあり、積極的に福祉ホームの利用者獲得を行った。その結果、緊急時の対応であったが静岡市以外からの相談もあり、利用が満室となる月もあった。

	令和5年度計画・目標	令和5年度実績	令和4年度実績
一日平均利用人数	4名	3.5名	2.1名

16 静岡済生会看護専門学校

基本理念

済生の精神にもとづき、対象となる人間を生命尊厳や個人が尊重されるかけがえない存在として捉え、それぞれの健康段階にある人に看護が実践できるような専門職業人を目指す。

令和5年度目標及び結果

目標1 看護師としての基礎的能力の育成と、済生の理念を基にした看護が実践できる学生を育成する

結果 学校の魅力の情報発信を工夫し、学生確保に努めた。また、看護師としての基礎的能力の育成とともに済生の精神を養い、個別性に配慮しながら講義・実習を積み重ねた。

目標2 看護師国家試験の全員合格を目指す

結果 教育目標に基づいた学年目標と年次の学びの積み上がりを意識し、学習方法を工夫した。結果、卒業生34名全員の看護師国家試験の合格結果が得られた。

目標3 講義・演習・実習へと学生自身が学びを継続し、深めるよう、講義内容を工夫する。また、教育目標を達成できるよう臨床と協働する

結果 臨地実習における学びは講義と関連づけられ、効果的な学習となった。また、学生が看護師として成長していく職業観を育む機会となった。臨床の協力も得て、教育目標に掲げた看護に必要な知識・技術・人間性を養うことができた。

目標4 教員の経験に応じた教育研修・臨床研修を行い、教育力の向上及び人材育成を図る

結果 教育体制を整え、専門性・実践力を高めるために専任教員養成講習会・訪問看護養成講習会の参加、臨地での研修を実施し、人材育成を図った。人材不足がある中、安定した教育を実践していくために教育力の向上に努めた。

目標5 令和4年度にスタートした新カリキュラムに対応した教育内容と方法の充実を着実に図る

結果 カリキュラム運用会議を定期的に進め、教育効果の評価をしながら新カリキュラムを進めている。ICT化に伴い、各授業の目的を意識したタブレットの活用も進んだ。また、学習者が興味をもって学べる学習環境を整えた。

(1) 学年別在籍者数 (定員 120名)

区分	1年次生	2年次生	3年次生	計
令和5年度実績	43名	32名	34名	109名
令和4年度実績	33名	38名	39名	110名

(2) 看護師国家試験結果

(名・%)

	令和5年度実績			令和4年度実績		
	受験者数	合格者数	合格者率	受験者数	合格者数	合格者率
静岡済生会看護専門学校	34	34	100.0	39	39	100.0
県内看護専門学校(3年課程)	-	-	98.0	-	-	95.2

令和5年度の全国(3年課程)の合格率は93.0%

(3) 卒業生の進路

(名)

区 分	令和5年度実績	令和4年度実績
済生会総合病院	32	36
その他県内病院	1	1
県外病院	1	2
進 学	0	0
そ の 他	0	0
計	34	39

(4) 入学試験結果

(名)

区 分		令和6年度	令和5年度
受験者	推薦入試	27	26
	社会人入試	4	12
	一般入試	47	79
	計	78	117
合格者	推薦入試	25	24
	社会人入試	1	2
	一般入試	34	31
	計	60	57
入学者	推薦入試	25	24
	社会人入試	1	2
	一般入試	14	15
	計	40	41

基本理念

障害や疾病を持ち、地域で生活している人々に対して、住み慣れた地域で安心して「その人らしく心豊かな生活」ができるよう、温かく思いやりの心で質の高い看護を提供します。

令和5年度目標及び結果**目標1 利用者の要望に沿い、安全、安心と信頼を得られる質の高い看護を提供する**

- ・所内での定期的な研修会企画や外部研修・事例検討会への参加を促し、個々のスキルアップをめざす(外部主催のWEB研修への積極的な参加を勧める)
- ・利用者スタッフの安全を第一に考え、感染対策の周知徹底を促す
- ・所内での事例検討やカンファレンスを定期的に行い利用者の情報や問題の共有解決を図る
- ・介護サービス情報公表、インシデント、アクシデント報告の徹底を促す
- ・接遇、看護者の倫理綱領、コンプライアンスの周知徹底を促す

結果

所内研修はスタッフの希望を聞くとともに、接遇、コンプライアンス、BCPについての研修も入れて計画を立て毎月、所内研修を行った。参加率も8割以上で満足度も高かった。また、他機関の主催する研修はWEB研修が多く現地に行かなくても参加出来る利点から、参加する機会が多くタイムリーな情報を得ることが出来た。

年に一度行っている利用者満足度調査から、利用者の意見を訪問に生かせるよう、スタッフ間でカンファレンスを行い情報共有に努め、統一した看護が提供出来るようにした。

目標2 利用者・地域のニーズを知り、関係機関、多職種との密接な連携を図る。

- ・他機関、多職種との連携、同一法人においての多職種との連携を積極的に行う。(サービス担当者会議、退院前カンファレンスへの参加など)
- ・利用者満足度調査実施
- ・広報活動(毎月のおたより発行・年報の発行・出前講義など)
- ・看護学生、新任訪問看護師、ケアマネージャー等実習の受け入れ

結果

退院前カンファレンスや担当者会議の開催には積極的に参加し、多職種との情報共有に努めた。また、済生会病院や小鹿苑ケアプラン部との連携を密に取ることで、病院と小鹿苑からの新規依頼が前年度より増加となり、利用者にとっても、病院と連携が取れているという安心感に繋がった。

利用者に向けて毎月のおたより発行や関係機関に向けた年報の発行をした。

他に地域施設に手技指導に出向いた。他にも町内会や高齢介護課からの依頼で地域住民に対して出前講座を行い、地域連携や在宅医療の広報活動に役立てた。

看護学生の受け入れについては、毎年3カ所の学校の学生を受け入れ、学生指導については臨床指導者を中心にスタッフ全員で取り組み、各学校から高評価が得られた。

目標3 健全で安定した運営をめざす

- ・年間訪問件数 18,500件（看護13,500件・リハビリ5,000件）を目標にする
- ・毎月の職員会議で実績統計をスタッフにも周知し評価をしていく
- ・残業時間の短縮、エコ活動で経費削減をめざす

結果

訪問件数がここ数年減少傾向であり、新規依頼は断らないとして、来た依頼は受けてきたが、新規依頼と同人数、もしくはそれ以上の終了者があり、訪問件数の減少につながった。また、傾向として在宅で最期を迎える利用者が減り、病院への入院や施設入所の選択が増えたことが訪問件数の減少に繋がったと思われる。その結果、前年度より年間訪問件数が965件と大幅に減少し、目標訪問件数に対し約3,600件少ない結果となった。訪問件数、訪問の内訳状況についてと、個人の残業時間を毎月の会議で提示し、その都度振り返りと対策を立てたが、今後も更なる対策が必要と考える。

目標4 職場環境の充実を図り、人材の確保に努める

- ・有給休暇を計画的に取得できるようにし、有給消化率をアップさせる。
- ・心身の健康やワークライフバランスの充実を図るため職場環境を整える。
- ・個人面接の実施

結果

スタッフの有休取得希望を随時聞き有休を取りやすい環境を作り、夏休みなど希望があれば連休も取れるようにした。また当番で夜間訪問があった時は翌日の勤務を半日または休みとし、心身を休めるようにした。

個人面接は定期的に行うとともに、必要時はスタッフに声掛けし随時個人面接を行いスタッフの意見を聞き、働き方の見直しを行った。

(1) 訪問看護事業実績

令和5年度は、介護保険、医療保険を含め訪問延件数は14,900件であり、令和4年度に比べ965件（介護保険304件増、医療保険1,267件減、その他2件減）減少。また訪問延件数のうち5,473件（6,023件）は、サテライトみかど台分である。

令和5年度間目標件数 18,500件

令和5年度実績件数 (達成率80.5%)

介護保険延べ件数 11,838件 (11,534件)

医療保険 2,987件 (4,254件)

その他(実費訪問) 75件 (77件)

合計 14,900件 (15,865件)

月平均1,241件(1,322件) 1日平均61件(65.3件)

疾病別

令和5年4月1日～令和6年3月31日

病名	人員(名)	構成比(%)
神経系疾患	44	11.3
呼吸器系疾患	27	6.9
精神障害	24	6.2
脳血管系疾患	16	4.1
骨格系及び結合組織疾患	27	6.9
悪性腫瘍	101	25.9
その他	151	38.7
計	390	100.0

